



東洋大学はいま

---

2017

**哲学とともに130年**  
130 years with philosophical mind

TOYO UNIVERSITY



# 東洋大学はいま2017

学校法人東洋大学は、創立者 井上門了の掲げた「諸学の基礎は哲学にあり」を理念として、教育・研究活動を中心とした学校運営に努めています。

本書は、本法人の運営体制や財務情報、社会の要請や課題に応える諸活動について、現状をお知らせすることを目的として作成しています。

With university founder Enryo Inoue's adage "The Basis of All Learning Lies in Philosophy" as our academic ideology, we at Toyo University encourage a school management system with educational and research activities at its core. This brochure is produced every year to inform you of the present situation of Toyo University's management structure and financial information, as well as the many activities we've organized to meet the needs of our society.



# TOYO UNIVERSITY 2017





# 建学の精神

Founding Spirit

## 諸学の基礎は哲学にあり

The Basis of All Learning Lies in Philosophy

### 独立自活

Independence and Self-Initiative

### 知徳兼全

Integrating Knowledge and Virtue

## 東洋大学の教育理念

Educational Ideologies of Toyo University

### 自分の哲学を持つ

Carry your own philosophy

多様な価値観を学習し理解するとともに、自己の哲学(人生観・世界観)を持つ人間を育成する。

### 本質に迫って深く考える

Seek truth and reflect deeply

先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫る仕方、論理的・体系的に深く考える人間を育成する。

### 主体的に社会の課題に取り組む

Tackle social challenges proactively

社会の課題に自主的・主体的に取り組む、よき人間関係を築いていける人間を育成する。

## 東洋大学の心

The Heart of Toyo University

### 他者のために自己を磨く

For others, be professional

自分を磨くのは、人々のためにはたらくことができるようになるためであり、そのことを自覚して学業に励むのが東洋大学の心である。

### 活動の中で奮闘する

Exert yourself in every activity

現実社会における活動の中にどこまでも前進してやまないのが、東洋大学の心である。



東洋大学は2014(平成26)年度に(公財)大学基準協会による大学評価(認証評価)を受け、「大学基準に適合している」と認定を受けました。この認定マークは、大学が常に自己点検・評価に取り組んでいること、そして社会に対して大学の質を保証していることのシンボルとなるものです。



# Index 目次

Toyo University by the Numbers

## 数字で見る東洋大学

数字が示す  
東洋大学の歴史と現在。

Toyo University's past and present  
by the numbers

07  
page



Enryo Inoue's Founding Spirit,  
and the path Toyo University  
has tread up to now

Philosophy of Enryo Inoue & History

井上円了の志を、継承する。

創立者井上円了が掲げた建学の精神。東洋大学の今日までの軌跡。

09  
page



Research

## 革新を創造する。研究。

27  
page

主体的に、多様性ある  
豊かな社会を実現するために。

To proactively realize a society abundant  
in diversity



International Exchange

## いざ世界へ。国際交流。

35  
page

国際社会で活躍する  
精鋭を育成するために。

To foster elites who will succeed in  
international society



大学の知を  
社会連携。

Social Collaboration

大学の知、人を動員し、社会的責任を果たす。

31  
page

Mobilizing university knowledge and people,  
and fulfilling our social responsibility



Initiative & Sports  
イニシアチブ &  
スポーツ。  
激変する社会で、  
前進するために。  
スポーツを通し、  
貢献するために。

To make progress in  
ever-changing society  
To contribute through  
sports

39  
page



New Effort

## 2017年、変革。

新たな学部・学科、施設・設備紹介。

Introduction of new faculties,  
departments, facilities, and equipment

17  
page



Education

## 世界を拓く。教育。

地球規模の課題を解決する視野と知力、  
志を育てるために。

To foster the vision, wisdom, and will to resolve  
global scale problems

23  
page



45  
page

Economy & Finance

教育を支える  
安定した  
経営基盤。

Fundamental Data

## 各種データ

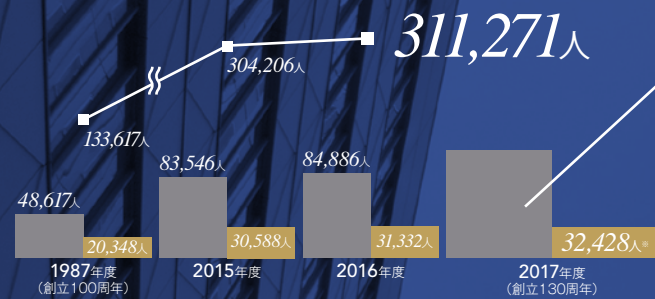
49  
page



# Toyo University by the Numbers

数字で見る東洋大学

## 学生数の推移 Students



■ 志願者数 (センター利用入試・一般入試・総合問題入試・実技入試/学部第1・2部)  
■ 学生数 (学部第1・2部、大学院、通信教育課程) ■ 卒業・修了生数 (累計)

2017 (平成29) 年度センター利用入試・一般入試・総合問題入試・実技入試志願者数は101,180人で、これは国内600校の私立大学で6番目の規模です (2017年度入試の結果はP.52に掲載)。また、これまでの卒業・修了生は31万人を超え、それぞれ社会の第一線で活躍しています。  
※2017 (平成29) 年5月1日現在の暫定数であり、変更になる場合があります。

## 志願者数 Applicants (2017年度センター利用入試・一般入試・総合問題入試・実技入試/学部第1・2部合計)

101,180人  
私立大学 全国6位

## センター利用入試志願者数 The number of candidates using the National Center Test for University Admissions

全国1位 志願者数 46,866人

## 学部学科数 (2017年度) Faculties and Departments

13 学部 46 学科

新制大学に移行した1949 (昭和24) 年の文学部設置以来、東洋大学は総合大学として13学部46学科を擁するまでに発展し、全ての学部で4年間一貫の同キャンパス教育体制を実現。2017 (平成29) 年度には新たに3学部5学科を開設しました。また、大学院は現在、13研究科35専攻と専門職大学院から成り立っています。

## 就職率 (2017年3月卒業生) Employment Rates

98.3%

朝日新聞出版「大学ランキング 2018」では、就職率 第11位 (卒業生2,000人以上、2016年3月卒業生実績)。2017 (平成29) 年3月卒業生 (学部第1部) の就職率は98.3%と、前年の98.0%を上回る実績となりました。

## 学内会社説明会参加社数 (2016年度) Participating Companies in On-Campus Company Information Sessions

1,082社

2016 (平成28) 年度中の求人社数は18,085社。開催した学内会社説明会には延べ1,082社が参加しました。

## 外部評価 External Evaluation

9年連続  
AA

東洋大学は、2017 (平成29) 年1月に株式会社日本格付研究所 (JOR) より、9年連続で長期発行体格付の「AA」(ダブルAフラット)、21段階の上から3番目の格付を取得。格付の見直しは「安定的」とされました。格付事由は、「学生獲得力が強いこと」「比較的余裕のある収支の確保が可能」「良好な財務構成」などが挙げられています。

## 資産の推移 Asset Status



資産は継続的にゆるやかな増加傾向にあり、純資産構成比率は90%を超え、安定的に高い水準で推移しています。

## THE 世界大学ランキング 日本版2017 Times Higher Education Japan University Rankings

### 教育満足度

※私立大学、首都圏大規模大学 [大学定員数 5,000人以上]

7位

「THE 世界大学ランキング日本版 2017」において、東洋大学は私立の首都圏大規模大学における教育満足度に関して、早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、明治大学、青山学院大学、東京理科大学に次ぐ7位\*になりました (全体30位)。これは高等学校の教員から、学生一人ひとりを成長させる教育力を持つと評価されたものです。

## 講師派遣数 (2016年度実績) Visiting Lecturers

121カ所へ 121人  
152校へ 191人

大学の「知」を社会へ還元するため、数多くの講師を全国に派遣しています。

## 大学独自の給付型奨学金支給総額 Total Allowance for Individual University Benefit-type Scholarships (2016年度)

5億5,846万円

東洋大学奨学金および東洋大学独立自活支援奨学金での給付総額。

## 女子学生数・女性教授数 Number of Female Students and Female Professors

7位

朝日新聞出版「大学ランキング 2018」では「女子学生総数7位」、「女性教授総数7位」となり、高い女性比率を誇ります。東洋大学は1916 (大正5) 年に、日本の私立大学で初めて女子学生を受け入れ、2000 (平成12) 年には主要私立大学で初となる女性学長が誕生するなど、男女共同参画の先駆けとなっています。

## 海外との協定数 (2017年4月現在) Overseas Agreements

32カ国  
118協定



東洋大学は32カ国の106大学、3コンソーシアム、5機関、3都市と協定を結んでいます。  
※詳しい情報はP.50に掲載

## イブニングコース (第2部) 入学定員 (2017年度) Evening Course (Night School) Student Capacity

755人

意欲ある学生がひとりでも多く学べるように、学費を抑えたイブニングコース (第2部) を6学部9学科に設置。夜間学部の定員は日本の大学で最大規模であり、全私立大学夜間部学生の約24%が本学に通っています。

## 海外留学を支援する奨学金支給総額 Total Allowance for Study Abroad Support Scholarships (2016年度)

1億158万0,050円

東洋大学海外留学促進奨学金として349人、東洋大学交換・認定・協定校語学留学奨学金として98人へ給付しました。



# 日本を世界に拓く。 哲学教育の礎を築いた情熱。

Opening Japan up to the rest of the world. A passion to construct an educational foundation for philosophy.

## Enryo Inoue 創立者「井上円了」

1858(安政5)年、慈光寺の長男として生誕。10歳で明治維新を経験し、漢学・洋学を学ぶ。23歳の時、設立間もない東京大学文学部哲学科にただ1人の1年生として入学。幼少期より身近にあった「仏教」を西洋哲学の目で見直し、「諸学の基礎は哲学にあり」と確信すると、1887(明治20)年、「私立哲学館」を創立。「哲学の研究・普及が文明を発展させるために不可欠」と考え、著作と大学教育による哲学の普及に身を捧げ、「東洋の日本」から「世界の日本」を志し、海外を視察するなど、明治時代の日本で新しい教育の扉を開くことに尽力した。1919(大正8)年、中国大連での講演中に倒れ、61歳で逝去。



Toyo University's history began in 1887, when philosopher Enryo Inoue founded a private school called Philosophy Academy. Enryo believed that "for Japanese people living in the new Meiji era, philosophy will be the foundation of all thought." He also emphasized the importance of "practice of philosophy"—namely the value of cultivating the very fundamentals of "methods for seeing and thinking" through the study of philosophy.

### 世界を知る、先陣を切る。

円了は、生涯において自分自身の目で確かめることを大切に、3度の長期世界視察を経験しました。海外旅行も難しかった時代に、欧米や南米の異文化に触れることで、宇宙主義と日本主義を体感しました。そして、世界で得られた見聞を大学教育の理念とし、さらに後の全国巡講により、民衆に伝え、急速な欧化主義に流される日本において多様な価値観を学ぶ機会を設けました。この思想は21世紀の本学においても「グローバル人材の育成」という基本方針に継承されています。

### 学ぶ喜びを広める、全国巡講の旅

晩年の円了は、日本全国をまわる壮大な講演旅行「全国巡講」を行いました。この講演は、海外視察で学んだ大学教育、社会教育に触発され、「言論の自由」「人格の尊重」などの社会教育や生涯学習

の広範な普及を目指したものでした。27年間にわたるこの旅は、現在の市町村の約60%に足跡を刻み、5,291回\*の講演活動を行った円了は、中央と地方の間で今以上に大きな格差のあった明治時代において、社会教育のバイオニアだったといえます。

\*15冊の「南船北馬集」に記録が残されている1906(明治39)年から1918(大正7)年までの13年間の講演回数。

### 教育の門戸を広げる志

円了が私立哲学館を創立した際の趣意書には、「余資金なく優暇なき者に教育機会を開く」とあり、学ぶ意志があっても経済的・社会的に学べない全国各地の人々に、講義をまとめたテキストを送り自宅で学習できる「館外員制度」(現代の通信教育にあたる制度)を取り入れるなど、全ての人に教育の門戸を開くことに尽力しました。その大いなる社会教育の志は、現在の本学の「イブニングコース(第2部)」などへと受け継がれています。

## 沿革 井上円了の志を継ぎ、歩み続けた130年

130 years of continuing Enryo Inoue's vision

In 1887, Enryo Inoue founded the Philosophy Academy, the predecessor to Toyo University, which took on its current name in 1920. In the 130 years since its foundation, the school has successfully grown into a comprehensive university, and has established a variety of academic faculties and graduate schools as well as opened new campuses. Currently, Toyo University has grown into one of Japan's most distinguished schools, and possesses 13 faculties with 46 departments and 13 graduate schools with 35 graduate courses, all spread across five campuses.

## Since 1887

- 1887年(明治20) 井上円了が私立哲学館を創立  
本郷区龍岡町(東京都文京区湯島)の麟祥院で授業開始
- 1897年(明治30) 小石川区原町(東京都文京区白山)に新校舎落成  
(現在の白山キャンパス)
- 1899年(明治32) 「私立京北尋常中学校※」を開設  
※現 東洋大学京北中学高等学校
- 1905年(明治38) 京北幼稚園を開設
- 1906年(明治39) 「私立東洋大学」と改称
- 1916年(大正5) 日本の私立大学で初めて女子の入学を許可
- 1920年(大正9) 「私立」の冠称が廃止され、「東洋大学」へ改称
- 1949年(昭和24) 新制大学に移行、文学部を設置
- 1950年(昭和25) 経済学部を設置  
短期大学部を設置
- 1952年(昭和27) 大学院を設置
- 1956年(昭和31) 法学部を設置
- 1959年(昭和34) 社会学部を設置
- 1961年(昭和36) 川越キャンパス(埼玉県)を開設し、工学部を設置
- 1963年(昭和38) 東洋大学附属姫路高等学校(兵庫県)を開設
- 1964年(昭和39) 東洋大学附属牛久高等学校(茨城県)を開設  
通信教育部を設置
- 1966年(昭和41) 経営学部を設置
- 1967年(昭和42) 創立80周年記念式典を挙げる
- 1977年(昭和52) 朝霞キャンパス(埼玉県)を開設
- 1987年(昭和62) 創立100周年記念式典を挙げる
- 1990年(平成2) 白山キャンパス新校舎建設開始
- 1997年(平成9) 板倉キャンパス(群馬県)を開設し、  
国際地域学部、生命科学部を設置
- 2002年(平成14) 短期大学を廃止

- 2004年(平成16) 専門職大学院法務研究科法務専攻(法科大学院)を設置
- 2005年(平成17) 朝霞キャンパス(文・経済・経営・法・社会学部)1・2年次を白山キャンパスに統合、4年間一貫教育開始  
朝霞キャンパスにライフデザイン学部を設置
- 2006年(平成18) 白山第2キャンパス(東京都)を開設し、法科大学院が移転  
大学院経済学研究科公民連携専攻設置に伴い、大手町サテライト(東京都)を開設  
ライフデザイン学部人間環境デザイン学部を設置
- 2007年(平成19) 大学院学際・融合科学研究科を設置
- 2008年(平成20) 井上円了生誕150周年  
文学部第1部教育学科に人間発達専攻、初等教育専攻を設置
- 2009年(平成21) 工学部を再編し、理工学部を設置  
川越キャンパスに総合情報学部を設置  
生命科学部に応用生物科学科、食環境科学科を設置  
ライフデザイン学部生活支援学科に生活支援専攻、子ども支援専攻を設置  
国際地域学部を白山第2キャンパスに移転  
大学院福祉社会デザイン研究科人間環境デザイン専攻を設置
- 2010年(平成22) 国際地域学部国際地域学科を2専攻とし、地域総合専攻(イブニングコース)を設置  
経営学研究科にマーケティング専攻、ビジネス・会計ファイナンス専攻を、  
ビジネス・会計ファイナンス専攻に中小企業診断士登録養成コースを設置
- 2011年(平成23) 大学院国際地域学研究科国際観光学専攻と、大学院学際・融合科学研究科バイオ・ナノサイエンス融合専攻を設置  
東洋大学総合スポーツセンター(東京都)完成  
学校法人京北学園と法人合併し、京北中学校・高等学校、京北学園白山高等学校、京北幼稚園を併設校とする
- 2012年(平成24) 創立125周年記念式典を挙げる
- 2013年(平成25) 文学部に東洋思想文化学科を設置  
板倉キャンパスに食環境科学部を設置  
国際地域学部、法科大学院が白山キャンパスに移転  
東洋大学附属姫路高等学校創立50周年記念式典を挙げる
- 2014年(平成26) 大学院工学研究科を理工学研究科に改組  
東洋大学附属牛久高等学校創立50周年記念式典を挙げる  
東洋大学附属姫路中学校(兵庫県)を開設  
文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援(タイプB)」採択
- 2015年(平成27) 京北中学校・高等学校が東洋大学京北中学高等学校に校名変更し、  
男女共学の東洋大学附属校として東京都文京区白山に移転  
東洋大学附属牛久中学校(茨城県)を開設
- 2016年(平成28) 大学院総合情報学研究科と、大学院食環境科学研究科を設置
- 2017年(平成29) 赤羽台キャンパス(東京都)を開設し、情報連携学部、  
大学院情報連携学研究科を設置  
白山キャンパスに国際学部、国際観光学部、  
文学部国際文化コミュニケーション学科を設置

# 130th Anniversary



学校法人東洋大学  
理事長

# 福川 伸次

Chairman, Toyo University Incorporated Educational Institution  
Shinji Fukukawa

特別 対談

# 竹村 牧男

東洋大学  
学長

President, Toyo University  
Makio Takemura

## 混迷する世界に、 提案できる日本へ

### 世界の価値意識をリードする日本力を 高めよう

福川 | 世界には課題が山積していますが、私はとりわけ、3つの課題を指摘したい。

第1は、世界が将来への理想を見失い、目指すべき方向性が揺らいていることです。

第2は、協調の精神の低下です。世界中で国内利益優先の思考がはびこり、社会意識が内向きになっています。世界の協調によって経済や安全保障を形づくってきたグローバリズムは、人類が長い歴史の中でやっと勝ち得た貴重な価値観ですが、その根本にある「協調の精神」が落ちてしまっているのではないのでしょうか。

第3は、新しいことに挑戦する意欲が低下していることです。IoTやAI、インダストリー4.0など技術的な変革は進んでいますが、秩序や経営、文化や芸術、そして人間の価値などの領域を含めたイノベーションの意欲が世界中で低下しています。世界が大きく変わる中でどういうメカニズムが必要か、どんな理想を持ち、どう協調するか、いまこそ新しい挑戦が必要です。

竹村 | 確かにいま価値観が混迷していて、地球全体がどの方向へ進んでいるのかわからないような状況です。地域紛争も多く、国際秩序もうまく機能しない。ローカルなコミュニティもそれぞれの問題を抱えていますし、人間の社会自体が混乱をしている状況とも言えそうです。

### Japan to Dispatch New Messages to the World in Disarray

#### A Time for Strengthening the Japanese Power to Raise Global Awareness of Values

Fukukawa | The world is now facing a mountain of issues. Especially I would raise 3 issues. The first one is that the world is losing its sense of ideals, and leaves us unsure of future directions to be tackled.

The second one is a retreating spirit of cooperation. Leaders around the world are turning inward as they prioritize domestic interests. Globalism, that has shaped economic and security systems through global cooperation is a precious set of values that we human beings have finally attained in the lengthy history of civilization. However, I am afraid that the very fundamental "spirit of cooperation" is decaying.

The third one is a falling motivation to take on new challenges. IoT, AI, Industry 4.0 and the like are indeed driving change in the technological field, but innovation in such areas as management, social order, culture and the arts, as well as human values, is experiencing a worldwide drop in motivation. Right now there is a call on us to answer new challenges on what mechanisms we should establish, what ideals we should hold to, and how we should cooperate in this dramatically changing world.

Takemura | The situation certainly seems to be that values are in disarray and we do not know where the world as a whole is heading. There are numerous local conflicts and the international order does not function well. Local communities, too, face their own problems. You could say that human society itself is in disorder.

福川 | 我々は世界の価値意識をリードする思想の芽を生み出せるか、次世代を拓く理想を提案できるかが問われています。

その答えへの道筋として、私は常々「日本力を見直し、高めること」だと考えてきました。日本力とは、異なる文化に対する寛容や理解、協調、勤勉、自然尊重、文化重視などの優れた価値体系に基づいており、それを高める人間力です。日本は、そして東洋大学は、こうした価値に基づく改革を世界の人々に提案していかなければいけない。現在はそのための重要な時期だと言えるでしょう。

### 力強く進む、東洋大学のグローバル化

竹村 | 次世代を担う人々には、地球的な視野を持って世の中の状況をリアルに把握した上で、世界の人々と協調し、社会の問題に主体的に関わるモチベーションやスキルが求められます。東洋大学ではかねてからこうした意欲や能力を持ったグローバル人材の育成に注力しており、文部科学省による「スーパーグローバル大学創成支援」に採択された「TOYO GLOBAL DIAMONDS グローバルリーダーの集うアジアのハブ大学を目指して」という構想を着実に進めてきました。

この「TOYO GLOBAL DIAMONDS」は10年計画であり現在4年目ですが、すでに多くの取り組みを実現させています。例えば、語学科目以外の専門科目において全体の約10%で英語による授業を行っています。また「英語トラック（入学から卒業まで英語で学び卒業できるコース）」も、2017年4月開設の「グローバル・イノベーション学科」「情報連携学科」、大学院なども始まっています。

Furukawa | We are now questioned how we can produce the buds of thought that will lead the world toward an awareness of values, and how we can propose new ideas to open the next generation.

I have consistently believed that the path to the answer is reconsidering and enhancing the Japanese Power. What I mean by Japanese Power is a value system that stands in tolerance, understanding of other cultures, cooperation with others, diligence, respect for nature, and high regard for culture. The ability of our people to utilize those values is basic. Japan, as well as Toyo University, must propose to the people of the world the innovation that is the foundation of these values. It seems that we stand at the crucial time.

#### Toyo University's Globalization, Pushing Ahead Strong

Takemura | The next generation of leaders will need the motivation and skills to proactively cooperate with the world's people and address society's issues. Furthermore, these traits must be founded upon a global outlook and a realistic grasp of the world's state. Toyo University has long been devoted to educating global professionals who possess such enthusiasm and competency. Hence, we are steadily implementing "Toyo Global Diamonds --- becoming, an Asian hub university for global leaders," a plan adopted by the Ministry of Education's Top Global University Project.

Toyo Global Diamonds is a 10-year plan. We are currently in the fourth year, but already we have accomplished much. For example, around 10% of classes in major courses outside of language courses are conducted in English. Furthermore, we have the English track curriculum in which students study in English from enrollment to graduation. This curriculum has been available in the Department of Global Innovation Studies, the Faculty of Information Networking for Innovation and Design (both established in April 2017) and our graduate schools.

#### 福川 伸次

1932（昭和7）年生まれ。東京大学法学部卒業。1955（昭和30）年、通商産業省入省。内閣総理大臣秘書官、通商産業事務次官、（株）神戸製鋼所代表取締役副社長・副会長、（株）電通顧問・（株）電通総研代表取締役社長兼研究所長などを経て、2003（平成15）年3月から学校法人東洋大学理事となり、2012（平成24）年12月から現職。

#### Shinji Fukukawa

Born in 1932. Earned a Bachelor's degree in law from the University of Tokyo. Hired by the Ministry of International Trade and Industry (MITI) in 1955. Has served in such positions as Secretary to the Prime Minister, as Administrative Vice-Minister of the MITI, Executive Vice President and Representative Director of Kobe Steel, Ltd., Executive Advisor of Dentsu Inc. and as Chief Executive Officer and Director of Dentsu Communication Institute Inc. Has assumed the positions of Trustee of the Toyo University Educational Foundation since 2003 and Chairman of the Toyo University Educational Foundation since 2012.

#### 竹村 牧男

1948（昭和23）年生まれ。東京大学文学部印度哲学・印度文学科卒業。博士（文学）。専門分野は仏教学・宗教哲学。1975（昭和50）年に文化庁専門職員となり、以降、三重大学助教授、筑波大学教授を経て、2002（平成14）年から東洋大学教授。文学部長などを歴任し、2009（平成21）年9月から現職。

#### Makio Takemura

Born in 1948. Holder of a Ph.D. in Literature. Earned a Master's degree in Indian philosophy at the University of Tokyo's Graduate School of Humanities. Specialties are Buddhist studies and religious studies. Hired as a specialist by the Agency for Cultural Affairs in 1975. Later became an assistant professor at Mie University and a professor at the University of Tsukuba. Became a professor at Toyo University in 2002. Prior posts include a stint as Dean of the Faculty of Letters. Has served in present post since September 2009.



# 世界標準の大学運営で、新たな「知」の拠点へ

World-Class University Administration

to Create a New Knowledge Hub

**竹村** | さらに2017年度は、かつてない人数の留学生を迎えました。キャンパスが国際化し、日常の中で異文化に触れる機会が大変増えました。また、教員が世界を視野に入れて国際通用性を考えながら教育・研究を進めていることも大きな成果です。世界の若者が集い学び、ワールドクラスの研究拠点を確立し、我が国の国際化を牽引していく—その道のりを、いま着実に歩み続けています。

グローバルな大学だから、と本学を志望する人も増えました。また、海外での異文化体験やインターンシップ、ボランティアを志す学生も増え、彼ら彼女らは、世界の課題を自分に引き寄せ、他者への貢献を考えながら、自分の人生を設計しています。本学の国際化は、さらに加速していきます。

## 東洋大学自体のイノベーションを

**福川** | 昨年、東洋大学はビジョン「Beyond2020」を掲げました。これは東京オリンピック・パラリンピック後も見据え、日本はどういう社会を目指すべきか、東洋大学は何をすべきかを中長期的観点で整理したものです。未来を拓く人に求められる能力を改めて抽出し、計画に集約しました。それは「グローバルイノベーション」「イ

**Takemura** | In the 2017 academic year we welcomed even more international students than ever before. The campus has become more international, providing many opportunities to experience other cultures during our everyday routines. In addition, our faculty has been adopting a global outlook to add international validity to their teaching and research. This effort has yielded tremendous results. We are walking steadily down the path to becoming a place where young people from across the globe gather to study, a university that serves as a world-class research center, and an institute that leads Japan's internationalization. More young scholars are choosing Toyo University because it is a global institute of higher learning. Additionally, there is a growing number of students who wish to go overseas and experience another culture, take on an internship or volunteer. These men and women perceive global issues as their own and, having contributions to others in mind, are shaping their own lives. Our university's internationalization is picking up pace.

## Innovating Toyo University

**Fukukawa** | Last year, Toyo University announced the new vision called "Beyond 2020." This vision is a plan to adopt a mid- to long-term point of view in determining what sort of society Japan should aspire to and what Toyo University should challenge, as we look ahead to the Tokyo Olympics and Paralympic Games and after. We have derived the competencies that the shapers of the

イノベーション」「創造力」「人間価値」をキーワードとした行動計画になっています。このビジョンの根底にあるのは「次の世代に投資する社会」を構築する思想です。現在の日本は政治も企業活動も「次の世代につけまわす社会」です。教育への公的支出はOECDの中でも非常に低い。一方、世界では教育に注力し、世界中の「知」を集める政策がとられています。また諸外国では大学を拠点にITやIoT、AIなどの新しい発展の芽を作り、ベンチャービジネス分野でも成果を上げています。

日本でも成長の原動力を取り戻すには、人間の能力を進化する投資を行うことが必要です。将来の選択の幅を拡大するためには、新しい価値を生み出す能力を高めなければいけません。世界の「知」を集めるという視点も重要です。「Beyond 2020」では、こうした方向性を示しています。こうした大きな流れを作る牽引役として、東洋大学は一層活躍すべきだと考えています。

**竹村** | 「Beyond2020」で掲げた4つのキーワードに加えて、グローバルリーダーを育てるためには、課題発見能力や問題解決能力、異文化理解・活用力、そして自文化理解・発信力などの「知の力」と、根底にある主体性や意欲を全学的に高めることが重要です。そのためには、東洋大学自体のイノベーションが必要です。改革のポイントは「世界標準の大学運営」「教育の質的転換」の実現で

future will need and built them up to the action program. Keywords such as "globalization", "innovation", "creativity" and "human values", have formed the ground of our action plan. The vision lies on the idea of building a society that invests in future generations. Japan today, including its politics and business activities, is a society that passes burdens on to future generations. Among OECD countries, Japan's public spending on education is extremely low. Meanwhile, societies around the world commit to education and formulate policies to gather knowledge from across the globe. Moreover, not a few countries are turning their universities into new sources of development in such fields as IT, IoT and AI. These institutions are also yielding results in the venture business sector. Japan must invest in expanding the skills of its human talent for regaining the driving growth potentials. In order for people's capabilities to blossom and come forth, we must ensure an expanding, wide range of options and enhance our ability to produce new value. Gathering knowledge from overseas is also vitally necessary. "Beyond 2020" demonstrates these strategies. I believe Toyo University should do even more in its leading role to make this great challenge happen.

**Takemura** | In addition to the four keywords espoused in Beyond 2020, it is also important, for the purpose of cultivating global leaders, to enhance "knowledge skills," such as the ability to identify and solve problems, to understand and make use of other cultures, and to understand and spread one's own culture. It is also

しょう。大学運営を世界標準のものとし、国際的な通用性のある大学にする。これは、世界の「知」を集めることにも通じます。

そして教育の質的転換。いま以上に学生が主体的に、十分に学べる環境を提供していきます。すでに、ラーニング・コモンズやさまざまな学修の相談に乗る窓口の設置、双方向的な授業(フリップクラスルーム:反転学習)の導入などを始めており、学生の主体性とクリエイティビティの向上を支えています。また研究力についても国際水準へと磨き上げていきます。現在の世界の混迷は政治家に哲学がなくポピュリズムに流されていることが1つの大きな要因です。これに対する大学の使命は、学問や哲学に基づく知的な分析・判断などをきちんとふまえて、未来に向けた提言をしていくことです。こうした「知」の創造拠点になることが、東洋大学のいちばん重要な使命だと捉えています。

また、加えて大学の運営では「教職協働」の充実にも注力します。教員の視野だけで物事を進めるのではなく、広い視野を持った職員が高等教育の課題や社会の課題を基に教員に提言していく。教員と職員が課題解決策を共に考え、共に実現していく。そうした「教職協働」の体制を確立することも、東洋大学のイノベーションです。

important to augment the proactive attitude and enthusiasm for all branches of academics that form the basis of these skills. To that end, Toyo University itself is in need of innovation, principally by realizing a world-class university administration and a qualitative transformation in education. We shall operate the university in line with global standards and turn it into an institution with a global standing. Doing so will also lead to the gathering of global knowledge. Next is the qualitative transformation in education. We are working to provide an environment where students can learn more independently and thoroughly than now. We have already opened the Learning Commons and various help desks where students can receive consultations on their studies, and we are beginning to introduce "flipped classrooms" for interactive lessons. These changes are helping to improve students' independence and creativity. Moreover, we are raising our research capabilities up to international standards. One of the main causes of the world's disorder today is the populist trend among politicians who lack philosophical understanding. The university's mission to counter this phenomenon is to propose ideas for the future through intellectual analysis and judgment based on academic studies and philosophy. Becoming such a vital stronghold of knowledge might be the most important mission of Toyo University. In addition, in the administration of the university we are focusing on enriching instructor-staff collaboration. Rather than proceeding solely along the lines of the instructor's outlook, administrative staff with a broad outlook, too, makes suggestions to faculty based on the issues facing higher education or society in general. Faculty and staff think together on solutions to these issues and then

## 異なる知を連携・融合する「哲学」

**福川** | 東洋大学では「諸学の基礎は哲学にあり」という建学の理念を受け継いでいます。いま、この「哲学」の価値を改めて見つめる時期だと思います。「新たな知」のためにはさまざまな学問の連携・融合こそが必要です。また定量的な成果に加え、文化や価値観、人間力などの定性的な面も融合させなくてはならない。「哲学」とは、この連携や融合を担う「絆」です。

**竹村** | 創業者である井上円了先生のお考えは、まさにそのことをねらっていたと言えるでしょう。本学は哲学を基礎に置いていると同時にいま総合大学として、文系、理系、文理融合など、いろいろな分野の学部学科を擁しています。だからこそ、この「連携」「融合」の課題についてもより深く考え、実践に移していきたいと考えます。また、新しい世界を実現するには、人間の根本の価値というものの世界の人々がもう1回見直すことも必要でしょう。そういう意味でも、哲学が顧みられるべき時代です。これからの社会に寄与する、そのいちばん根本的な理念が本学には息づいていると言えるでしょう。

implement. Establishing this system of instructor-staff collaboration is also part of Toyo University's innovation.

## Philosophy to Link and Integrate Different Knowledge

**Fukukawa** | At Toyo University, we carry on the founding ideal that "The Basis of All Learning Lies in Philosophy." I believe now is a time for us to take a new look at the value of philosophy. Diverse scholarly cooperation and synthesis are necessary for new knowledge and intellectuals. Furthermore, we must create synthesis not only in quantitative results, but also in qualitative aspects, such as culture, values and the vitality of people. "Philosophy" is the bond that connects these kinds of academic cooperation and synthesis.

**Takemura** | That could really be the target that our founder, Enryo Inoue, strived to attain. But at the same time, we now possess departments in a variety of fields, including the liberal arts, the sciences and combinations thereof, as a general institute of higher learning. That is why I want to contemplate these issues of cooperation and synthesis more deeply and put them into practice. Furthermore, the planet's people will likely have to once again reconsider the values at the foundation of civilization if we are to realize a new world. In that sense as well, now is the time when we should revalue philosophy. That most fundamental of concepts, which will contribute to the good of society, is what breathes life into our university.

東洋大学が受け継ぐ「哲学」の意味、価値をいまこそ見直したい。

Now is the time to reconsider the meaning and value of the "philosophy" we carry on at Toyo University.

学校法人東洋大学 理事長 福川伸次  
Chairman, Toyo University Incorporated  
Educational Institution  
Shinji Fukukawa

「知の力」と主体性や意欲を高める環境を充実させていきます。

We shall enrich the learning environment to enhance knowledge skills, along with independence and motivation.

東洋大学 学長 竹村牧男  
President, Toyo University  
Makio Takemura



# Beyond 2020

## Key Concepts

東洋大学ビジョン「Beyond 2020」では4つのキーワードによる大学改革を約束します。

Toyo University resolutely commits to the following four challenges as stressed in the vision Beyond2020.

**Globalization**  
グローバル化

**新時代において活躍できるグローバルスキルの育成**

To develop global sense and skills needed for overseas activities and global cooperation.

**Innovation**  
イノベーション

**社会全体の危機感を、期待感へ**

To enhance the sense and ability to innovate new products, models, systems and services in various ways.

**Creativity**  
創造力

**研究者 × イノベーターで、産官学連携を創造する**

To stimulate the ability to create new values, for example, through innovative industry-government-academia collaborations.

**Human Value**  
人間価値

**幅広い教養と専門能力による、確かな人格の育成を**

To cultivate and heighten human values and ability through cultural and philosophical knowledge.



時代の要請と高等教育の使命を踏まえたこれらのキーワードをもとに、5つの項目を実現することとし、それぞれの行動計画を策定しました。

We have decided upon the following five programs of action, out of these keywords; these have been chosen to meet the demands of the times and our mission of higher education.

### Program 1 Innovation

**行動目標**  
社会に新たなイノベーションを巻き起こす大学へ進化する。

- 行動計画**
1. 情報連携研究による AI、IoT、ビッグデータの活用と社会インフラの整備実用
  2. アジアを中心とする発展途上国への官民と共に行う、多国間共同研究プロジェクトの推進
  3. 国内外の最先端の経営手法の研究と教育機能の展開
  4. 食環境、健康福祉研究分野などの健康先進国をリードするプロジェクトの推進
  5. ダイバーシティ推進組織の設立と多様な社会システムの実現に向けた推進活動の展開
  6. 「TOYO SPORTS VISION」をもとにした、地域とのパートナーシップ形成と健全な青少年育成活動
  7. 国際的なスポーツビジネスの運営協力の開始
  8. 観光立国を推進するためのプロジェクトの展開

**ACTION OBJECTIVE**  
To evolve into a university that may deliver new socially-relevant innovations

- ACTION PLAN**
1. Improve social infrastructure by expanded use of AI, IoT, and big data involving collaboration.
  2. Promote multinational collaborative research projects in association with public and private institutions from developing countries, primarily in Asia.
  3. Research state-of-the-art management skills of enterprise used both in Japan and abroad, and develop educational functions.
  4. Promote advanced projects with regard to health in areas such as food, environment, health and welfare.
  5. Establish organizations that promote social diversity and develop activities aimed at promoting a diverse social system.
  6. Form a partnership with the region for healthy youth development activities that are based on Toyo University's sports vision.
  7. Initiate cooperation in international sports business management.
  8. Expand related projects to innovate with respect to the national goal of tourism.

### Program 3 Research

**行動目標**  
日本、アジア、グローバル研究を推進し、世界水準の研究力を持つ。

- 行動計画**
1. 国内外の先端企業とのネットワークの形成
  2. 外部資金獲得戦略チームの形成と研究者支援体制の確立
  3. 大学発ベンチャーの起業・ファンドの設立、本学学生、卒業生の若い起業家の支援
  4. 論文発表数、産業からの研究費収入を考慮した研究予算の重点配分
  5. 戦略的な海外研究派遣と研究ネットワークの形成

**ACTION OBJECTIVE**  
To Enhance academic capabilities comparable to international standards through extensive studies on Japan, Asia, and the world

- ACTION PLAN**
1. Build up domestic and international networks of cutting-edge companies.
  2. Form a strategy team for the acquisition of external funding and establish a support system for researchers.
  3. Establish entrepreneurs and funds for university ventures and support young entrepreneurs among our current students and graduates.
  4. Prioritize the allocation of research budgets according to the number of published papers and the amount of research revenue from industry sources.
  5. Form research networks and send researchers for strategic overseas researches.

### Program 5 Management

**行動目標**  
チーム東洋の総合力を発揮する。

- 行動計画**
1. 学生定員と教員定員、職員定員の見直し(ST比、SS比の改善)
  2. 学内委員会組織の効率化と整理による研究時間の創出
  3. 特任教員採用をはじめとする採用形態の柔軟化
  4. 国内外の教育研究情勢調査及び大学運営戦略能力の強化
  5. 専任教員の役割の明確化とアウトソーシング等の総コストバランスの適正化

**ACTION OBJECTIVE**  
To demonstrate the comprehensive power of Toyo University by strengthening cooperative mechanism to be called "Team Toyo"

- ACTION PLAN**
1. Review student, faculty, and staff capacity
  2. Increase time for research by improving the efficiency and organization of campus committees.
  3. Create flexible recruitment forms, including those for appointing specially-appointed instructors.
  4. Survey educational and research conditions both domestically and abroad, and strengthen the strategic capabilities of university management.
  5. Clarify the role of full-time staff and optimize total cost balances by means such as outsourcing.

### Program 2 Education

**行動目標**  
哲学することを教育の基本とし、幅広い教養と専門能力を培い、自立性ある豊かな人格の形成を行う。

- 行動計画**
1. 留学生との共同学習による課題解決型教育の開発
  2. ディベート中心型リーダー育成プログラムの開発
  3. 実践教育を目的とした企業人による教育参画を増加
  4. カリキュラムの外部評価の導入
  5. 学習成果(Learning Outcomes)指標の開発と授業シラバスへの明示
  6. 授業の ICT 活用支援を含めた授業改革支援体制の強化と高等教育センターの開設
  7. オープンエデュケーションによる多様で優れた教育の世界展開

**ACTION OBJECTIVE**  
To cultivate a wide range of cultural and professional competencies through philosophy as the basis of education, with the aim of achieving autonomous personalities

- ACTION PLAN**
1. Develop education-problem-solving through joint initiatives with international students.
  2. Develop a debate-centered leader training program.
  3. Expand educational participation by business professionals seeking practical educational opportunities.
  4. Introduce external curriculum evaluations.
  5. Develop learning outcome indicators and clarity in class syllabi.
  6. Strengthen the class reform support system, including classroom ICT-use support, and establish a center for higher education.
  7. Expand the range and quality of educational courses through open education.

### Program 4 Globalization

**行動目標**  
世界で通用するグローバル大学へ変革し、世界ランキングの上位を目指す。

- 行動計画**
1. 官民を巻き込んだ留学生獲得強化と派遣強化戦略の策定と実行
  2. トップレベルの英語教育の充実
  3. 海外大学との共同開発授業の創出
  4. グローバル企業等との教育面での産学連携、企業-大学間の相互教育システムの構築
  5. 多様な人材を獲得するためのデュアルトラック制度の導入
  6. 海外からの客員研究員の積極的招致

**ACTION OBJECTIVE**  
To challenge highly-ranked, world-class universities through reforming our academic system and activity

- ACTION PLAN**
1. Increase our recruitment of international students through reaching out to the public and private sectors and implement strategies to strengthen the dispatch of students.
  2. Enhance advanced English language education.
  3. Create jointly developed classes with overseas universities.
  4. Promote industry-academia collaboration for education in association with global corporations and construct a system for reciprocal education between corporations and the university.
  5. Introduce a tenure-tracking system to attract diverse talent.
  6. Proactively invite visiting researchers from overseas.



# 新学部・新学科を開設

Establishment of new faculties and departments

2017(平成29)年4月、世界を舞台に活躍し、新たな価値を創造する人材の育成をさらに加速させる、3学部5学科を開設

Three new faculties and five new departments established in April 2017, to further accelerate the development of globally successful and innovative human resources

## 国際学部 グローバル・イノベーション学科 / 国際地域学科

Faculty of Global and Regional Studies, Department of Global Innovation Studies / Department of Regional Development Studies

### Contributing to the development of global society and local communities through worldwide opportunities

The Faculty of Global and Regional Studies and its two departments have been newly established to meet the needs of modern society and its continuing globalization, and provide a practical learning environment that focuses on the future of international society. In the Department of Global Innovation Studies, students acquire the (dialogue based lateral) leadership skills necessary to bring about innovation in global society. In the Department of Regional Development Studies, students take a bottom-up approach to management and master their ability to promote regional development.

### 世界を舞台に活躍し、国際社会・地域社会の発展に貢献

グローバル化が進む現代社会のニーズに応えるため、2学科制の「国際学部」を新設し、これからの国際社会を見据えた実践的な学びの環境を整えます。

「グローバル・イノベーション学科」では、経済、環境、紛争など、さまざまな課題が発生している国際社会で、イノベーションを起こすためのリーダーシップ力を身につけます。卒業後は、グローバル企業や国際機関での活躍、ベンチャーやソーシャル・ビジネスの起業など、グローバル社会の新たな展開を担う対話力を持ったリーダーを目指します。

「国際地域学科」は、文化の多様性を尊重し、現場主義に基づく「地域づくり」を展開する力を身につけ、国内外のコミュニティを舞台にビジネスや開発支援などを通じて、社会発展に貢献できる実行力と異文化理解力 / 共感力を備えたエキスパートを育成します。

Department of Global Innovation Studies Professor Heizo Takenaka

### 竹中平蔵教授がグローバル・イノベーション学科へ

1951年和歌山県生まれ。一橋大学経済学部卒業。博士(経済学)。ハーバード大学客員准教授などを経て、2001年小泉内閣で経済財政政策担当大臣を皮切りに、金融担当大臣、郵政民営化担当大臣、総務大臣を歴任。現在、政府の国家戦略特別区域諮問会議・未来投資会議メンバー。2016年に東洋大学国際地域学部教授を務め、グローバル・イノベーション学研究センター長を兼任。2017年4月から国際学部グローバル・イノベーション学科教授。



## 情報連携学部 情報連携学科(INIAD)

Faculty of Information Networking for Innovation and Design (INIAD), Department of Information Networking for Innovation and Design

大学院情報連携学研究科を同時開設

Graduate School of Information Networking for Innovation and Design also established

### Employing information and communication technology, connecting systems and people through networking capabilities

The Faculty of Information Networking for Innovation and Design (INIAD) is a faculty where students will develop the ability to bring together or "network" people of various nationalities and fields of study through combining the various functions and services of the internet. In their first year, all students will develop their communication skills and focus on Computer Science (CS) courses, which together form the base of linking capabilities. In their second year, students will split into their respective courses (engineering, business, design, and civil systems) to master specialized technical skills. As an educational system with overlapping courses, students will develop an especially practical approach to the "networking" process.

### 情報通信技術を活用し、システムと人々を「連携」させる力を磨く

日々、新しい技術や価値が生み出される現代。今、インターネットを通じて多様なモノと連携し、アイデアを形にする力が求められています。「情報連携学部」(INIAD)はインターネットの様々な機能やサービスを組み合わせ、多様な国籍や専門分野を持つ人と「連携」する学部です。初年次に全ての学生は連携の基盤としてCS(Computer Science)とコミュニケーションスキルを鍛え、2年次からはエンジニア・ビジネス・デザイン・シビルシステムの各コースに分かれて専門的な技能を身につけます。また、4つのコースの学生でチームを作る「横断型の教育」を実施し、より実践的に「連携」力を研磨します。さらに学内での起業を支援するビジネス・イノベーション制度も開始予定です。

Dean of the Faculty of Information Networking for Innovation and Design (INIAD), Professor Ken Sakamura

### TRONプロジェクトの坂村健氏が学部長に就任

1951年東京都生まれ。慶應義塾大学卒業。工学博士。専門はコンピュータ・アーキテクチャー(電脳建築学)。1984年よりTRONプロジェクトのリーダーとして、全く新しい概念によるコンピュータ体系を構築。2015年、ビル・ゲイツ氏等とともに国際電気通信連合(ITU)150周年賞をアジアで唯一受賞。2017年4月から東洋大学情報連携学部長、東洋大学情報連携学部学術実業連携機構長を務める。



## 国際観光学部 国際観光学科

Faculty of International Tourism Management, Department of International Tourism Management

### Developing talented individuals who will lead the global tourism industry

The Faculty of International Tourism Management develops human resources who support the continuing globalization of the tourism industry, particularly concerning the increase of foreign travelers to Japan. With a motto of "For Others, Be Professional," the faculty aims at producing talented individuals who can accurately educate the world on Japanese culture, and who can plan and implement specific policies designed to meet the continuously diversifying needs of foreign visitors to Japan.

### グローバル市場化する観光業界をリードする人材の育成

訪日外国人旅行者の増加など、グローバル化が進む観光業界を支える人材を育成する「国際観光学部」は、「For Others, Be Professional」をモットーに日本文化を世界に正しく発信し、多様化する訪日外国人のニーズを満たす具体的な施策を立案・実行できる人材を養成します。観光産業に必要な知識や教養、マナーなど、即戦力となる実務スキルのほか、観光資源保護や観光交流などの分野を理解した上で、地域、国家、世界の3視点から観光政策を具現化できる能力を身につけます。卒業後は、旅行・観光業界やサービス業全般への就職のほか、即戦力となる実務能力やマネジメント能力を生かして、公務員、金融業、不動産業など多方面での活躍が期待されます。



## 文学部 国際文化コミュニケーション学科

Faculty of Letters, Department of International Culture and Communication Studies

### Cultivating true communicative abilities through high language skills and multicultural understanding

The Department of International Culture and Communication Studies in the Faculty of Letters aims for its students to: refine their multilingual skills beyond compulsory English classes by adding other languages such as German, French, Chinese, or Japanese (for international students); and master a wide range of academic disciplines while gaining a deep understanding of Japanese and world culture, history and philosophy, and various social contexts. With these two aims acting as central pivots for the development of true communicative skills, this department will foster human resources who can be highly successful in international society.

### 高い言語スキルと多文化理解を両輪として、真のコミュニケーション力を養う

国際化の急激な進展により、国や価値観の違いを超えて信頼関係を構築できる「コミュニケーション力」が必要とされています。文学部英語コミュニケーション学科を発展改組して開設した「国際文化コミュニケーション学科」では、必修の英語に、ドイツ語、フランス語、中国語、日本語(留学生用)などを加えた多言語にわたるスキルを磨くこと、日本や世界の文化、歴史や思想、社会背景などに対する深い理解と幅広い教養を身につけることを目指します。その2つを軸とする真のコミュニケーション力をもって、国際社会で自己を発信しながら活躍できる人材を育成します。卒業後は、教育文化産業やグローバル産業、各種公務員、出版、報道、広告、翻訳、通訳などの分野での活躍を目指します。





# 2017年4月、新たな知の創造 拠点が誕生

April 2017, the birth of a new intellectual creation base

## 赤羽台キャンパス

Akabanedai Campus

**IN** Information  
Networking for  
Innovation and Design

### Introducing cutting-edge IoT technology “smart campus”

Established in April 2017 in Tokyo's Kita-ku, Akabanedai is a “smart campus” that has adopted a cloud-based educational system. One of the distinctive features of the campus is that most of it has been digitalized with IoT devices. Students can gain real-time information via digital signage. IC cards serve as keys to streamline security when entering buildings. The library is also fully paperless; students use their own notebook computers for academic content perusal and studying. Additionally, there are many communication rooms around the campus for students to share ideas, prepare productive environments, and give their creativity form through “rapid prototyping.” The campus's architectural design was produced by Ken Sakamura, the dean of the Faculty of Information Networking for Innovation and Design, and construction is being led by Kengo Kuma & Associates, which handled the design of Tokyo's New National Stadium.



### 最先端のIoTを導入した 「スマートキャンパス」

2017(平成29)年4月、東京都北区に開設した赤羽台キャンパスでは、情報連携学部(INIAD)の学生が学んでいます。このキャンパスは、クラウドベースの教育システムを取り入れた「スマートキャンパス」です。特徴はキャンパス内のモノをデジタル化(IoT:Internet of Things)していること。紙を貼るタイプの掲示板はなく、デジタルサイネージからリアルタイムで情報を得ることができます。建物に入る際のセキュリティも個人のSuicaやPASMO等のFeliCa対応ICカードで管理され、セキュリティレベルに合わせた入場の権限も個別に設定できます。図書館は紙の本の代わりに論文を中心とした電子ジャーナル・電子ブックが充実しているデジタルライブラリーで、学生は自らのノートパソコンなどで閲覧・学習します。カリキュラムでは、事前学習として講義動画を視聴し、授業ではディスカッションや実習を中心とする反転授業を積極的に実施。また、キャンパス内には多くのコミュニケーション空間、小規模実習室などがあり、アイデアを交換し、スピーディーに形にする「ラピッドプロトタイピング」を目指します。コンピュータサイエンスをベースにさまざまな才能が融合する新しい学び舎は、「情報連携学部(INIAD)」のコンセプトを具現化した先進的なキャンパスです。

キャンパスのある赤羽台は、複数の路線が乗り入れるアクセスのよさと、住宅地の静けさを持ち合わせた教育・研究に適したエリアです。

キャンパスは坂村健情報連携学部長の総合プロデュースのもと、建築設計は新国立競技場などを手がける隈研吾建築都市設計事務所が担当しました。



## 白山キャンパス10号館

Hakusan Campus Building 10

### With both safety and the environment in mind Building 10 at Hakusan Campus has been completed

Hakusan Campus opened its new educational facility in April 2017. Known as Building 10, floors 1 through 3 house classrooms, while floors 4 and 5 are home to research laboratories. Ingenious designs have been incorporated into various elements of the building. One example is the building's central staircase, which is lit from above by skylights that capture natural light as it filters down to the lower floors and brightens the space. In addition, the atrium area makes use of a phenomenon known as the stack effect to provide active natural ventilation. Furthermore, Building 10 was designed with energy conservation in mind; solar panels have been installed on it, and a digital display is set up at the first-floor entrance that shows information on the building's solar electricity generation.

### 安全性や環境にも配慮した 新教室棟「10号館」が完成。

白山キャンパスに地上5階建の新教室棟「10号館」が完成しました。1～3階は教室フロア、4～5階は研究室フロアとして利用します。打ち放しコンクリートの外装に水平庇を設け、シンプルでありながら太陽光などによる陰影によって、さまざまに表情を変える外観です。また、安全性や環境への配慮も備えた内部構造とし、建物中央の階段室上部に設置したトップライトにより、自然光を下階まで取り込むことができ、明るく安全な移動空間を実現。吹き抜け上部に設けた電動換気口は、各階ラウンジの吸気口と連動しながら開閉し、吹き抜け空間の煙突効果を活用した自然換気を積極的に促す設計としています。なお、太陽光発電を導入し、1階入口に設置したディスプレイにて発電情報の見える化を実現し、省エネ対策に取り組んだ建物となっています。





# 2018(平成30)年4月、博士前期・修士課程に4研究科

Four graduate schools and seven courses of study in the Master's Program, as well as six Doctoral Program will be established in April 2018

## 大学院改革で優れた研究者や高度専門職業人の養成を推進

### 国際学研究科 国際地域学専攻<sup>※1</sup> 博士前期課程 博士後期課程 (白山)

Graduate School of Global and Regional Studies (Hakusan Campus)

#### Developing professionals with high-level technical expertise who can contribute to regional development

The Graduate School of Global and Regional Studies Course of Regional Development Studies aims to produce open-minded and responsible leaders who can create solutions for both domestic and foreign regional problems. Embracing a global society filled with dozens of challenges and possibilities, students in the graduate program will gain an international perspective, and become regional development leaders who contribute to the advancement of autonomous and sustainable communities.

#### 「地域づくり」に貢献できる高度な専門的能力を有する専門家を養成

グローバル化により、途上国支援や諸外国との協働プロジェクトの重要性が高まり、国際的な舞台で活躍できる資質を身につけた専門家・研究者が必要とされています。グローバル社会で地域が抱える課題の多くは、その地域固有の条件や歴史的経緯から生じているとともに、世界規模での大きな変化と密接に関連しています。このように、さまざまな課題と可能性を持つグローバルな社会において、国際的な視野を持ち、自律的・持続的な地域の発展に貢献する地域開発リーダーとして、国内外の地域の課題解決に資する地域開発の担い手を養成するため、国際学研究科国際地域学専攻(博士前期課程、博士後期課程)を設置します。

### 国際観光学研究科 国際観光学専攻<sup>※1</sup> 博士前期課程 博士後期課程 (白山)

Graduate School of International Tourism Management (Hakusan Campus)

#### Fostering talented human resources who can lead global tourism

The mission of the newly established Graduate School of International Tourism Management is to train highly specialized experts who can succeed in global tourism industries, and to cultivate tourism management professionals who will lead sustainable global tourism.

#### グローバル観光を牽引するプロフェッショナル人材を養成

グローバル市場化する観光分野で活躍できる高度職業専門人の養成、および持続可能で国際的に観光を牽引する観光学プロフェッショナルの養成をミッションとして、国際観光学研究科国際観光学専攻(博士前期課程、博士後期課程)を設置します。博士前期課程では、インバウンド観光におけるイノベーションを起こしうる画期的な方策を指導できるリーダー、国際的な観光開発プロジェクトにおける日本と諸外国の架け橋を務める人材を社会に送り出すことを目的とします。また、博士後期課程では、俯瞰力と独創力を備えた国際観光分野を牽引する能力の習得を目指し、国内外のグローバル観光や観光開発プロジェクトにおける指導者、将来の国内外の観光分野に従事する人材を育成する役割を担う教育者、さらに観光学という応用分野の学術的発展に寄与できる研究者を養成します。

### 社会福祉学研究科 社会福祉学専攻<sup>※1</sup> 博士前期課程 博士後期課程 (白山)

Graduate School of Social Welfare (Hakusan Campus)

#### Developing specialists who will tackle welfare problems in a society of both decreasing birth rates and a growing elderly population

There is a high demand in the field of social welfare for human resources with specialized education. To meet this demand, the Graduate School of Social Welfare and Course of Social Welfare (Master's and Doctoral Programs) will be established. These programs will develop talented individuals with highly specialized knowledge and practical skills; they will pursue ways to analyze and handle the kind of welfare problems that require significant social support.

#### 少子高齢社会における福祉課題に取り組む専門家の養成

社会福祉の現場ではマンパワーの大幅な拡充のために必要となる教育者、そしてスーパーバイザーとしての役割を果たせる専門性を備えた人材が求められています。こうした社会的要請に応えるため、社会福祉学研究科社会福祉学専攻(博士前期課程、博士後期課程)を設置し、社会的支援が必要な福祉課題に対して、その問題構造を分析し対応する方途を探求していくための、高度に専門的な知見と実践力を有する人材を養成します。福祉に関する政策、制度、運営、実践をトータルに研究し、その成果を実践現場に還元するため、社会福祉の理論や制度・政策を講じる科目、そして社会的にハルネラブルな人々への支援について講じる科目を置き、体系的に研究指導を行う教育編成を整えます。

# 7専攻、博士後期課程に6研究科7専攻を設置

graduate schools and seven courses of study in the

Driving the development of excellent researchers and highly specialized experts via graduate school reform

### 社会学研究科 福祉社会システム専攻<sup>※1</sup> 修士課程 (白山)

Graduate School of Sociology, Course of System for Welfare Society (Hakusan Campus)

#### Contributing to the development of welfare society with sound academic knowledge and sophisticated practice skills

The course of System for Welfare Society offers an interdisciplinary-academic program related to sociology, social welfare, and sociocultural studies. Its purpose lies in training students to be equipped with sound academic knowledge and sophisticated practice skills. As globalization and localization both progress, the complexity of contemporary society increases. By focusing on strategic thinking, assessment, planning, and resource mobilization, students learn to apply the acquired academic skills in addressing actual social issues.

#### 高度な学術的素養をもって現実的な課題に対応できる専門家を養成

グローバル化やローカリゼーションが複雑にからみあひながら進行することも、社会的諸課題の内容も変化しつづけます。これに対応するには、既存の学問の境界を越えた学際的な取り組みに加え、課題発見・問題解決にあたっての実践力、意思決定能力等が重要になります。福祉社会システム専攻は、このような現代的要請を踏まえ、また社会人を対象とする夜間大学院として、社会学と社会福祉学を柱に、社会文化システム論等の視点も加え、高度な学術的素養をもって現実的な課題に対応できる専門家を養成します。2018(平成30)年度からは社会学研究科に設置。教育課程の一層の充実をはかります。

### ライフデザイン学研究科 生活支援学専攻<sup>※1</sup> 修士課程 ヒューマンライフ学専攻<sup>※1</sup> 博士後期課程 健康スポーツ学専攻<sup>※1</sup> 修士課程 人間環境デザイン専攻<sup>※1</sup> 博士前期課程 博士後期課程 (朝霞)

Graduate School of Human Life Design (Asaka Campus)

#### Training of specialists who can contribute to the improvement of the QOL (quality of life) in the modern world

The Graduate School of Human Life Design has been established to train educators, researchers, and highly specialized professionals with expertise in such important lifestyle fields as welfare, nursing, health and sports, and environment/product development, based on the principles of universal design and a global perspective, with the goal of providing these specialists with the ability to contribute to the improvement of the QOL of ordinary citizens.

#### 現代社会に生きる人々のQOL(生活の質)向上に貢献できる専門家を養成

少子高齢化の進行など、社会情勢・社会構造が時代とともに変化する中で、人々が生活上で直面する諸問題はより一層複雑・複合化しています。これら現代社会生活における諸問題解決のために、福祉、保育、健康とスポーツ、ユニバーサルデザインを基本とした環境・ものづくりなどの、生活に密着した各専門領域において高度な専門性を有し、かつ、複数領域の専門家と連携・協働して、広い視野から生活者のQOL(生活の質)向上に貢献できる人材が求められています。このような、実践現場における問題への高い解決能力を有する高度専門職業人や研究者、教育者を養成するため、ライフデザイン学研究科生活支援学専攻(修士課程)、健康スポーツ学専攻(修士課程)、ヒューマンライフ学専攻(博士後期課程)および人間環境デザイン専攻(博士前期課程、博士後期課程)を設置します。

### 総合情報学研究科 総合情報学専攻<sup>※1</sup> 博士後期課程 (川越)

Graduate School of Information Sciences and Arts  
Course of Information Sciences and Arts, Doctoral Program (Kawagoe Campus)

The Doctoral Program of the Course of Information Sciences and Arts in the Graduate School of Information Sciences and Arts will be established to develop superior researchers and engineers who can succeed on a global stage, have the ability to accomplish research endeavors both independently and systematically, and will develop specialized knowledge and cutting edge telecommunications technology related to the three applied fields of the Information Sciences and Arts (Systems Information, Media Information, and Sports Psychology Information).

総合情報学における3つの応用分野(システム情報、メディア情報、心理・スポーツ情報)の専門知識と最先端の情報通信技術の技能を身につけ、自立的かつ計画的に研究を遂行する能力を持ち、世界の舞台で活躍できる卓越した研究者・技術者を育成するため、総合情報学研究科総合情報学専攻(博士後期課程)を設置します。

### 食環境科学研究科 食環境科学専攻<sup>※2</sup> 博士後期課程 (板倉)

Graduate School of Food and Nutritional Sciences  
Course of Food and Nutritional Sciences, Doctoral Program (Itakura Campus)

The Graduate School of Food and Nutritional Sciences will establish the Course of Food and Nutritional Sciences Doctoral Program to develop researchers who will investigate the global environment surrounding food from a scientific approach and plan solutions to the many problems that both Japan and the world face regarding the environmental science and nutrition.

食を取り巻くグローバル環境を科学的に考察し、国際的な幅広い視野に立って、さらに高度な知識と研究能力を有し、世界・日本社会が直面する多様な食環境科学領域での諸問題に対して解決に向けた強い責任感と倫理観を持ち、新たなイノベーションを創造して解決を図る研究者を育成するため、食環境科学研究科食環境科学専攻(博士後期課程)を設置します。

※1 2017(平成29)年6月現在、2018(平成30)年4月開設予定。研究科名称等は予定であり、計画内容に変更になる場合があります。

※2 2017(平成29)年6月現在、2018(平成30)年4月設置構想中。研究科名称等は予定であり、計画内容に変更になる場合があります。



## 教育

# 自己の哲学を磨き、 物事の本質を理解する人材の育成

Developing human resources to focus their philosophical thinking  
and understand the nature of things

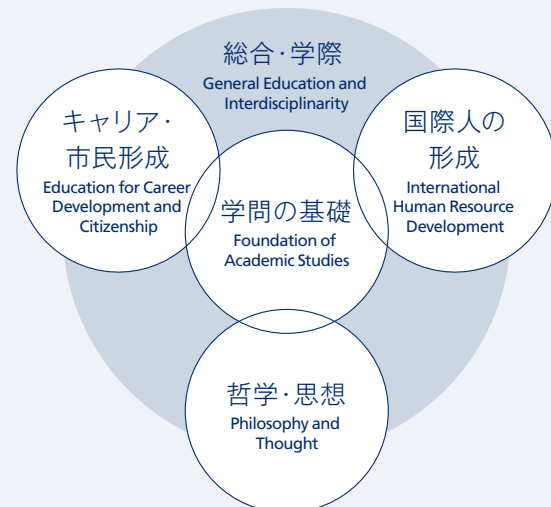
## EDUCATION

グローバル化が進展し、多様な価値感が混在、常に変化していく現代社会。その中で、時代や環境の変化に流されることなく、地球規模の視点から物事の本質を捉え、未来を切り拓く力を持った人材を育成するため、さまざまな教育環境を提供しています。

Modern society is constantly changing as globalization continues apace and diverse values come to coexist side by side. Toyo University offers various learning environments to educate professionals who will guide themselves, regardless of how our times and environment are changing, and who can understand the nature of things from a global perspective while possessing the skills to shape the future.

## グローバル社会で哲学を持って生き抜くための 基盤教育「東洋大学スタンダード」

Toyo University Standard:  
A general education instilling the philosophy to survive in a global society



東洋大学スタンダードのイメージ  
Toyo University Standard

We started up Toyo University Standard, a general curriculum, in the 2016 academic year based on the founding spirit of our institution: "The Basis of All Learning Lies in Philosophy." It is a new general curriculum with a stronger liberal arts education that connects the three core educational objectives, which are geared toward globalization: philosophical education, internationalization, and career-oriented education. Furthermore, student learning under this curriculum transcends the traditional, faculty-based framework.

2016(平成28)年度より基盤教育「東洋大学スタンダード」がスタートしました。「諸学の基礎は哲学にあり」という建学の精神のもと、地球規模の視点で物事を捉え、自分の未来を切り拓くことのできる「グローバル人財(人という財産)」の育成を目指して始めたこの取り組み。グローバル化のための教育目標である「哲学教育」、「国際化」、「キャリア教育」の3つの柱をつなぐ「教養教育」を強化。学部・学部の枠組みを超えて学ぶ新しい基盤教育カリキュラムとして、「哲学・思想」「学問の基礎」「国際人の形成」「キャリア・市民形成」「総合・学際」の科目区分を用意しています。これらは学部・学科にかかわらず、東洋大学生として身につけるべき共通の生き方・学び方の基盤となるものです。4年間の学びを通じて、グローバル社会をたくましく生き抜く力を持った人財を育成していきます。

## 高度な専門的職業人を養成する、 次代の大学院研究科を開設

New forward-looking graduate schools opened to train highly-skilled specialists

Toyo University opened two new graduate schools in April 2016. One is the Graduate School of Information Sciences and Arts, where students are instilled with the ability to enter the field of general information science. They are also taught advanced information processing skills and how to take action, with a focus on international applications. The other new organization is the Graduate School of Food and Nutritional Sciences, which trains professional specialists who adopt a global perspective as they solve issues concerning food.

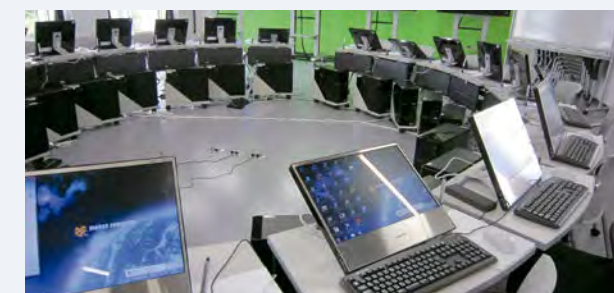
2016(平成28)年4月、大学院に2つの新しい研究科を開設しました。

### ■総合情報学研究科 総合情報学専攻(修士課程)

総合情報学の分野を切り開いていく能力と、国際的に通用する高度な情報処理能力・行動力を身につけた人材を養成。3つの分野「システム情報分野」「メディア情報分野」「心理生体情報分野」を設け、各分野に特化した専門科目を配置するとともに、英語による研究発表能力を高めます。

### ■食環境科学研究科 食環境科学専攻(修士課程)

食を取り巻く諸問題をグローバルな視点で解決する「実務のスペシャリスト」を養成。カリキュラムとしては就職に強い大学院を目指し、企業人講師による高度な社会人基礎教育科目を配置することで、企業が求める高度専門職業人を養成します。



## 教育の質の改善に向けてIR・FD活動を 主体的に推進

Proactive implementation of IR and FD for a better education

Institutional Research Office takes a strong stance on ensuring the quality of higher education, and is engaged in academically focused policy reform and support via the collection and analysis of various information obtained both on and off campus. The university actively promotes the work of the IR Office as well as our Faculty Development (FD) efforts to ensure and improve upon the quality of education at Toyo University. Our independent initiatives for better education are campus-wide in scope.

東洋大学では、高等教育の質の保証の観点から、学内外の諸情報の収集・調査分析を行い、教学を中心とした政策形成を支援していくことを目的に、学長を室長としたIR (Institutional Research) 室の活動を展開しています。2017(平成29)年3月には、白山キャンパスにおいて「東洋大学IR室シンポジウム」を開催。当日は有識者を迎え、大学教育を取り巻く環境や動向、東洋大学IR室が取り組む全学的な取り組みに関する講演、パネルディスカッションを実施。活発な意見交換が行われ、教育の質の向上に向けて有意義な会となりました。また、2017(平成29)年4月、FD推進センターから発展的に組織改編された高等教育推進センターでは、従来の教育の質の保証と向上に取り組むFD (Faculty Development) 活動に加え、新たに国内外の高等教育の動向に係る調査、ICT等を活用した教育形態の開発および大学運営の高度化に向けたSD (Staff Development) の要素を追加。教職員はもちろん、本学の学生によって組織された「学生FDチーム」が学生視点からの授業改善に関する提案を行うなど、大学全体で主体的に教育改善活動に取り組んでいます。





## 「働くこと」を意識させた就職支援サポート

### Career support to help students find employment



At Toyo University, all students take a test known as "PROG" two times – first when they newly enroll at the school and again when they become 3rd year students. During their years as undergraduates, students attend a variety of top-class lectures, and receive support aimed at helping them accomplish their academic goals. Meanwhile, multiple career support seminars are held around campus for 3rd year students. Additionally, there are many chances for students to gain an understanding of their strengths and weaknesses as well as the kind of talents desired in society, thanks to university activities such as mock job interviews led by student graduates.

東洋大学では、入学時と3年進級時の2回にわたり、「PROG」というアセスメントテストを全学生が受験。ジェネリックスキルを測定し、学生自身が強みや課題を把握し、社会で求められている能力を知ること、目標を持って学生生活を送るよう促しています。

低学年支援では、各界トップによる講演「未来を拓くトップセミナー」が実施5年目を迎えるほか、白山キャンパスで1年生を対象とした伴走型支援がスタート。高い目標や意欲を持った学生に寄り添いながら課題解決を重ね、目標達成に向けたサポートを行います。

3年次には、全キャンパスで複数回にわたる就職活動支援セミナーを実施。キャンパスごとの学生の特徴を捉えながらも、内容の共通化を図り、就職活動や社会に出る心構えが整うよう支援を行っています。2017(平成29)年3月には「11学部合同就活LIVE」を開催。企業100社を招聘し、文系理系あわせて約1,600名の学生が参加しました。

また、卒業生との結びつきも重視しており、卒業生による面接対策や学内でのOB-OG訪問、講演の実施等、働き方を考える機会を設けています。

## 健康栄養学科の学生が授業での学びを実践 学生が考案したヘルシーメニューを提供

### Department of Nutrition and Health Sciences students put learning into practice by providing original healthy menus

In October 2016, students in the Faculty of Food and Nutritional Sciences' Department of Nutrition and Health Sciences began serving balanced meals on the Itakura Campus. These meals are based on menus they created in their "Practice in Public Health Nutrition" lessons. The nutritional information was posted in the student cafeteria. Through this project, the students put what they learned in class into practice so as to get other students to think more about the healthiness of their daily diet.

2016(平成28)年10月、食環境科学部健康栄養学科の学生が授業(公衆栄養学実習)で作成した献立をもとにしたヘルシーメニューの提供を板倉キャンパスの学生食堂で開始しました。学生食堂2店舗が、1週間ごとに交互で提供日を設定し、健康に配慮した多彩な週替わりのメニューを1日限定20食で提供。献立に関する栄養情報を学生食堂内に掲示するなど、学生に普段の食生活から健康に関心を持ってもらえるように、授業での学びを実践しています。



## ゼミ所属の学生が、各所で多彩な活躍

### Seminar students' exploits on display here and there

The students of Toyo University's seminars are engaged in a wide range of activities, from racking up achievements in special competitions to organizing international exchange events.

東洋大学各学部のゼミは、さまざまなフィールドで活動しています。専門の大会に参加し、優秀な成績を収めたり、国際交流会を実施するなど、学生が幅広く活躍しています。

## 手話サークル「つみき」がJAXAと 「宇宙手話」を共同開発

### Tsumiki sign language club creates outer space vocabulary with JAXA



Tsumiki, Toyo University's sign language club, worked with JAXA, Japan's aerospace agency, to develop Japanese sign language vocabulary for terms relating to outer space. The students brainstormed with JAXA personnel to come up with six new signs for "JAXA," "International Space Station (ISS)," "extravehicular activity (EVA)," "Kounotori H-II Transfer Vehicle," "spacecraft" and "Hayabusa asteroid probe."

東洋大学公認の手話サークル「つみき」は、JAXA(国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構)と「宇宙手話」を共同開発しました。この取り組みは、宇宙用語の手話があれば、聴覚障がいのある方が施設見学および質疑応答をする際に役立つというJAXA担当職員の思いからスタート。「つみき」の学生たちは、JAXAの担当職員とアイデアを出し合いながら、2015(平成27)年11月から開発を進め、「宇宙手話」として『JAXA』『国際宇宙ステーション(ISS)』『船外活動(EVA)』『宇宙ステーション補給機こうのとり』『宇宙船』『小惑星探査機はやぶさ』の6種を開発。今後は、宇宙手話を広める活動を行い、手話というコミュニケーションの認知に貢献していきます。

## 那須塩原市主催のプレゼン大会で 総合政策学科 澁澤健太郎ゼミ生がグランプリ受賞

Toyo students at Department of Policy Studies seminar run by Kentaro Shibusawa win grand prize at presentation competition hosted by City of Nasushiobara

経済学部総合政策学科澁澤健太郎ゼミの学生が「大学ゼミナール那須塩原市活性化プレゼン大会2016」において、グランプリを受賞しました。この大会は、那須塩原市の観光地の景気低迷対策、観光資源の発掘、市内魅力再発見など、「首都圏の大学が地方のまちの活性化を提案する」大会です。地域が一丸となって取り組む観光戦略や経済活性化に対して、大学生の自由な発想と斬新なアイデアが存分に発揮され、地域と大学の連携を実践する機会となりました。

## 国際法模擬裁判大会「JILSA Cup」で 法学部 齋藤洋ゼミ生が準優勝

Students at Faculty of Law's international law seminar run by Hiroshi Saito place second at International Law Moot Court Competition's JILSA Cup

2017(平成29)年2月、架空の国家間紛争を題材として国際法の模擬裁判を行う国際法模擬裁判大会「JILSA Cup 日本語大会」において、法学部齋藤洋ゼミに所属する学生が準優勝を果たしました。京都大学、東北大学、上智大学、同志社大学など10大学が出場した大会で、決勝に進出。対戦相手の京都大学に惜敗し、総合で第2位(準優勝)となりました。グローバルな視点から法律を使用する経験を積むことで、実践的な知識を身につけています。

## 知的障がいのある海外の柔道家と都内在住の知的障がいのあるバスケット ボールのアスリートの交流を社会福祉学科 志村健一ゼミがプロデュース

Judoka from Europe with intellectual disabilities enjoyed recreational and cultural activities with Dr. Kenichi Shimura's seminar group students of the Department of Social Welfare. Although organizing such an event was challenging, it was a great learning experience.

2016(平成28)年7月、社会学部社会福祉学科の志村健一ゼミが公益財団法人スペシャルオリンピックス日本と共同で、スウェーデン、オランダ、ノルウェーから来日した知的障がいのある柔道アスリート約60名との国際交流会を開催。「障がいのバリア」と「言葉のバリア」を越えるため、身振り手振りを交えて英語での質問に答え、学生が企画したレクリエーションや文化交流を行いました。ゼミで学んだ「誰もが対等な関係で関わり合い、社会や組織に参加する機会を提供する」ことを実践する貴重な機会となりました。





## 研究

# 文理にわたる多様な研究を発展させ、 さまざまな社会問題の解決に貢献

Fostering diverse research in the humanities and sciences  
to help solve numerous problems in our society

## RESEARCH

東洋大学では、「主体的に社会の課題に取り組む」人材を育成することを教育理念に掲げています。産学官の連携強化や、企業と共に共同研究を行うことで、現代社会が抱える多くの困難な課題に対して、教職員と学生、専門家や市民社会など垣根を越えた協働による貢献を実践しています。

At Toyo University, our pedagogical philosophy is to cultivate talent that will "proactively address the issues facing society." By strengthening industry-academia-government partnerships and engaging in joint research with private companies, transcendent collaborations between faculty, students, specialists, and civil society are contributing to the public good by taking on the many challenging issues confronting modern society.

## 「産学医連携シーズマッチングwith東洋大学」を開催

Collaborative Industry-Academia-Medical seed-matching event conducted with  
Toyo University



In March 2017, Toyo University and the Medical Innovation Saitama Network jointly conducted "seed matching event". This event was held to present the excellent technological seeds Toyo University possessed, and to match those seeds with industries in medical needs.

2017(平成29)年3月、さいたま市の新都心ビジネス交流プラザにおいて「産学医連携シーズマッチング」を東洋大学と医療イノベーション埼玉ネットワークとの共催により実施しました。このイベントは、大学や研究機関が持つ優れた技術シーズを紹介し、産業や医療ニーズとのマッチングを行うことを目的に開催しているもので、埼玉県内を中心に関連分野における製品開発等に関心のある企業・団体が多数参加しました。イベントでは東洋大学の技術シーズの紹介として、「Organ on a Chipによる薬剤評価」や「マイクロ管路による血小板凝集機能装置の開発」など、教員の研究内容を発表した後、ポスター展示物を前に、各シーズの研究者と参加者の個別相談、情報交換を実施し、活発な交流が行われました。今後もさまざまな形で、大学の知を学外へ発信していきます。

## 「イノベーション・ジャパン2016」に過去最多の5件の 研究成果を出展

New record for Toyo University: five research outcomes exhibited at  
Innovation Japan 2016

Five research outcomes from Toyo University were exhibited at Innovation Japan 2016 - University Trade Fair & Business Matching Event, which was held in August 2016. The event is a venue providing impetus to connect research outcomes with industry. Each year over 20,000 members of the business community attend, making it the largest business matching event in Japan.

2016(平成28)年8月に開催された「イノベーション・ジャパン2016～大学見本市&ビジネスマッチング～」に、本学から過去最多の5件の研究成果が採用され、出展しました。このイベントは、研究成果を産業に結びつけるきっかけの場として、400を超える大学とベンチャー企業などが参加し、毎年2万人以上の企業関係者が来場する、国内最大規模の産学マッチングイベントです。

斜めからの乗り越えも補助する段差乗越え補助キャスタ  
[理工学部 横田祥准教授]

力の加わりにくい、斜めからの段差乗越えを補助する機構を有した車いす用のキャスタを開発しました。

社会基盤の長寿命化に寄与するコンクリート表面含浸材  
[理工学部 福手勲教授]

社会基盤の多くを構成する材料である、鉄筋コンクリートの長寿命化を図ることのできる技術を開発。効果的かつ効率的に、社会基盤の長寿命化に貢献します。

3Dスキャナを用いたアスリートの印象マネージメントシステム  
[総合情報学部 加藤千恵子教授]

場所を選ばず短時間でスポーツ選手の全身をスキャンし、3D表示データなどの生成を可能とするシステムを構築。3Dの外観から受ける印象を心理統計的に可視化することで、アスリートの印象マネージメントを実現しました。

組込み型超小型微粒子粒径測定装置の開発  
[総合情報学部 椿光太郎教授]

従来の微粒子粒径計測法では不可能だった粒径のリアルタイム計測が可能で、小型カメラを用いたレーザー回折光観測による超小型微粒子粒径測定装置を開発しました。

国産初:スヌーズレン機材・バブルチューブの開発  
[ライフデザイン学部 嶺也守寛准教授]

知的障がいや発達障がいを持つ方のために、特別にデザインされた環境での多重感覚の刺激を通して幸福感を産出する「スヌーズレン」。使用機材を海外に依存しており、コストやメンテナンスに問題があるため、共同研究を進める KOEDO 会の技術的要素を用いて、日本独自の文化に合ったスヌーズレンの機器の開発を進めています。

## 東京五輪に向けて、日本人用カヌーを開発 東京東信用金庫と産学連携協定を締結

Toyo University and Tokyo Higashi Shinkin Bank form industry-academia partnership to  
develop a customized canoe for Japanese athletes in run-up to Tokyo Olympics

Toyo University and Tokyo Higashi Shinkin Bank have formed an industry-academia partnership and started up a project to develop a Japanese-made canoe in the run-up to the Tokyo Olympics. Many of the canoes used by Japanese athletes are made in countries with an advanced and refined understanding of canoeing in Eastern Europe. They can be difficult for the Japanese to handle, so the partners in this project decided to manufacture a customized canoe just for them.

東洋大学と東京東信用金庫は、2016(平成28)年5月に産学連携協定を締結し、都内の中小企業との共同研究を推進することとなりました。その中核事業が東京五輪に向けた「国産カヌー開発プロジェクト」。本学からは理工学部生体医工学科・望月修教授と寺田信幸教授の研究室が参加しています。日本のカヌー選手が使用しているカヌーは、競技先進国である東欧で作られたものが多く、身体の大い選手に合わせて作られているため、日本人には扱いづらいこともあります。そこで日本人向けカヌーを製作するプロジェクトが立ち上がりました。望月教授の専門は流体工学とバイオメティクス(自然や生物の機能を工業製品に応用する学問分野)。望月教授の研究室ではこれまでも、バイオメティクスを応用した競泳水着の開発などを行ってきました。今回のプロジェクトでは、力強く水をかくカエルの水かきを応用したパドルや、川の流れを利用したカヌーの開発を目指します。





## “空き家”を活かしたまちづくりの提案

### Urban Renewal Proposals Utilizing Abandoned Houses



In January 2017, the Department of Architecture in the Faculty of Science and Engineering opened an exhibition entitled "Proposals for Urban Development through Vacant House Restoration." This exhibition was part of the department's Moroyama Project, a government-academia collaboration between Toyo University and Moroyama Town of Saitama Prefecture. There, students presented their proposals on sustainable renewal of vacant houses as a potential form of urban development to community members, government bodies, and local firms.

理工学部建築学科は、野澤千絵教授を中心に埼玉県毛呂山町との官学協働で取り組んでいる「毛呂山プロジェクト」の一環として、2017(平成29)年1月、「空き家を活かしたまちづくり提案展」を開催し、「都市・建築企画設計演習」(学部3年次対象)の成果を地域住民・行政・地元企業の方々に発表しました。全国各地で深刻化する空き家問題の解決は喫緊の課題となっていることもあり、当日は多くのメディアからの取材もありました。毛呂山町は埼玉県内で空き家率ワースト1(19.8%)であり、首都圏の中でも先行して空き家問題が深刻化している地域と言えます。学生たちは、単に空き家のリノベーション設計ではなく、毛呂山町で増え続ける空き家の持続的な更新を可能とするまちづくりとしての提案に重きをおき、建築学科の専門教育としては珍しい事業採算についても学習を重ねました。

## パーソナルモビリティビークルで高齢者の社会参画をサポート

### Personal mobility vehicle developed to help seniors stay involved in the community

While a growing number of seniors are using mobility tools to get around due to difficulty walking in their advanced age, this reliance gives them fewer opportunities to move their body and can reduce their bodies' ability to function. Professor Yoshiyuki Takahashi from the Faculty of Human Life Design's Department of Human Environment Design has developed a personal mobility vehicle that uses an electric motor to assist with walking as needed. This new mobility tool provides "preventive nursing care" in that it helps the user maintain the ability to walk and expands the range of available activities.

高齢者は歩行が困難になると、車いすなどを使って移動することが多くなります。しかし、座ったままで体を動かす機会が少なくなると、身体機能が低下し、さらに歩行困難の度合いが進行してしまいます。ライフデザイン学部人間環境デザイン学科の高橋良至教授は、少しでも歩ける場合はできるだけ自力で歩行してもらい、必要に応じて電動モーターによってアシストする乗り物を作れば、歩行能力も維持でき、行動範囲も広がるのではないかと考え、パーソナルモビリティビークルを開発しました。

パーソナルモビリティビークルの基本的な原理は、操作者の蹴り出しを検出し、モーターが歩行をアシストするという仕組みです。操作者が足を動かさなければ電動アシストが作動しないため、操作者自身の身体能力を生かすことで、超高齢社会の日本における“予防介護”につながる、新しい移動ツールです。



## 「ダイバーシティサーベイ」を社会心理学の戸梶亜紀彦教授が共同研究により開発

### In joint research, Professor Akihiko Tokaji of the Department of Social Psychology develops Diversity Survey



Professor Akihiko Tokaji from the Department of Social Psychology has developed a Diversity Survey. The tool, resulting from joint research conducted with the Fuji Xerox research and technological development division and the Fuji Xerox Learning Institute, reveals the current state of efforts to encourage women to work.

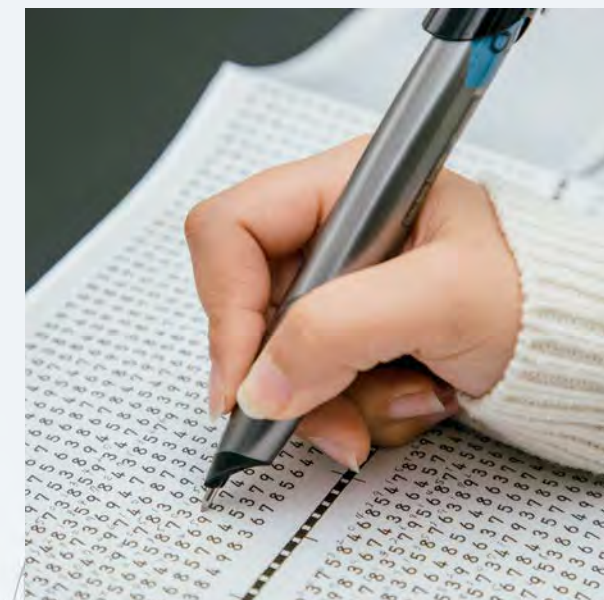
2016(平成28)年4月に「女性活躍推進法」が施行され、女性を取り巻く労働環境がどう変わっていくのか注目されています。そこで社会学部社会心理学の戸梶亜紀彦教授が、富士ゼロックス研究技術開発本部および富士ゼロックス総合教育研究所との共同研究により開発したのが女性活躍推進に向けた現状把握ツール「ダイバーシティサーベイ」です。このツールは、アンケートにより企業や団体の女性活躍の現状や進捗を把握し、多様な雇用形態や働き方の受容、付加価値の高い効率的な働き方の実現を目指しています。女性だけでなく男性も含めた全従業員を対象にアンケートを実施し、集計結果に対して自社の女性活用の実態がどのフェーズにあるかを分析。目標や課題に向けた改革を推進するための情報を提供することで、企業ひいては日本社会全体のダイバーシティ推進に貢献します。

## 筆跡の時間情報を用いて、メンタルヘルス不調の予兆を把握

### A novel method for evaluating the risk of mental health disorders using handwriting characteristics

Recently, the number of patients with mental health disorders has been increasing. Due to a high recurrence rate of these disorders, there is a pressing need for methods that predict the risk of mental health disorders. The results of a follow-up cohort study over four years suggested an index using handwriting characteristics was predictive of the risk of mental health disorders.

近年、メンタルヘルス不調者が急増し、社会問題となっています。中でもうつ病は再発率が高いため、早期発見し発症そのものを防ぐ方策が求められています。そこで生命科学部生命科学の川口英夫教授は、デジタルペン(手書きの文字や図形を画像データとしてパソコンなどに転送するペン)を用いて取得した筆跡データから、メンタルヘルス不調の予兆を早期に把握する研究に取り組んでいます。200人の大学生を対象に4年間追跡したコホート調査(追跡調査)の結果、筆跡の時間情報を解析して得られる指標が、メンタルヘルス不調の予兆把握に有効であることを見出しました。さらに、生活習慣や食習慣の面からメンタルヘルス不調のリスクファクターを抽出することで、高リスクの場合の具体的な対処法を得る研究を進めています。





## 社会連携

# 教育・研究機関として、 社会と連携し、開かれた大学へ

Toward public partnerships and an open university  
as an institute of education and research

## SOCIAL COLLABORATION

遡ること130年、本学の創立者・井上円了の理念として、東洋大学は一貫して「社会に開かれた大学」であることを重視してきました。大学の持つ知、学生の力、施設などを活用し、教育・研究機関として「社会貢献」と「地域連携」を推進しています。

130 years ago, Enryo Inoue, the university's founder, had an idea he held dear: Toyo University would be open to the public. Thus, the university has used its knowledge, the talents of its students, its facilities and other assets to promote public contributions and engage in community partnerships as an institute of education and research.

## 東京都北区との連携事業に関する覚書の 締結を発表

Signing of MOU announced on partnership with Tokyo Kita-ku



Toyo University convened a press conference to announce the conclusion of a memorandum concerning a partnership beginning in 2017 between the university and Tokyo Kita-ku. The conference occurred in March 2017 at the Toyo University Welcome Festa held on the Akabane Campus. The city and the university will make proactive use of their assets so as to develop the local community and train talent.

2017(平成29)年3月に赤羽台キャンパスで開催した、東京都北区との共催による「東洋大学ウェルカムフェスタ」。北区と東洋大学の2017(平成29)年度以降の連携事業に関する覚書を締結し、記者発表を行いました。本学は2011(平成23)年に、北区と連携・協働に関する包括協定を締結しています。ウェルカムフェスタで交わされた覚書では、大きく3つのことが定められました。1つ目は赤羽台キャンパス内に北区と本学での産学連携に関するワンストップ窓口を設置し、年2回のセミナーを開催すること。2つ目は、教育分野における連携事業として、次期学習指導要領で導入されるプログラミング教育を区内の小中学校で推進していくこと。そして、3つ目が大学内のボランティア組織や情報技術の専門知識を活用し、地域社会の課題解決に取り組んでいくことです。

区と大学が持つ人的・知的・物的資源を積極的に活用し、地域社会の発展や住民福祉の向上、人材育成や学術の発展につなげていきます。

## 世界に目を向けた投資セミナーを グローバル・イノベーション学研究中心が開催

Center for Global Innovation Studies holds global investment seminars

The Center for Global Innovation Studies at Toyo University holds regularly scheduled seminars on the international economy. The purpose is to spread and share the knowledge of our university, which seeks to identify the mechanisms behind globalization and innovation so as to construct the foundation for a more robust global society. Another objective is to be in touch with the trends affecting our thoroughly dynamic international community.

東洋大学では国際社会の多様なシステムのイノベーション理論と方法の研究、ならびにグローバル・イノベーション活動を担う人材育成方法の研究を目的として、グローバル・イノベーション学研究中心を設置しています。定期的に企業のCEOをはじめ、金融機関や投資専門家の方を対象とした国際経済に関するセミナーを開催する同センターでは、2016(平成28)年4月、および10月に国内では未だに十分な実態が把握されていない「新興国の経済発展と投資機会」をテーマにしたセミナーを開催。また、2017(平成29)年6月には元世界銀行総裁ロバート・ゼリック氏を招いた講演の開催を予定しています。より強固なグローバル社会の基盤を構築するため、グローバル化とイノベーションのメカニズムを追求する本学の知見を広く共有し、活力に満ちた国際社会の動向を先導していきます。



## 電子書籍のアクセシビリティについて考察する シンポジウムを開催

Symposium held to consider accessibility to e-books

A symposium was held in January 2017 to commemorate the publication of Research in E-Book Accessibility, a book printed by Toyo University Press. The symposium was extremely beneficial for Toyo University to make use of its research data and provide everyone with better academic and literary opportunities.

2017(平成29)年1月、東洋大学出版会発行の書籍「電子書籍アクセシビリティの研究」の出版を記念し、シンポジウムを開催しました。同書は、電子書籍の音声読み上げや文字拡大などのアクセシビリティ機能について総合的に研究した国内初の書籍であり、電子書籍版でも日本で初めてほぼ誤読のない音声読み上げを実現しています。シンポジウムでは、視覚障がい者だけではなく、難読症、帰国子女など、音声の読み上げによる学習が想定されるケースに対して、あらゆる面でのアクセシビリティの確保が急務になっている現状を確認しました。

また、電子書籍のアクセシビリティは一部の視覚障がい者のためだけではなく、老化による弱視や、言語学習、書籍の楽しみ方の多様化など、全ての人のために推進するものであるという視点が重要であると議論が交わされ、本学の研究データを活用し、全ての人により良い読書・学習機会を提供していくために有益なシンポジウムとなりました。





## 改正児童福祉法の意義や課題を考えるシンポジウム

Symposium on the significance of and problems facing the Amended Child Welfare Act



Toyo University's Research Center for the Development of Welfare Society held a symposium entitled "Making the most of the Amended Child Welfare Act." There, the school played host to lectures by knowledgeable experts on the finer details of the amendments to the act and its background, as well as what developments may arise because of them. This university intends to further promote research that should eliminate the various lifestyle problems born of changes to Japan's socio-economic structure.

東洋大学の福祉社会開発研究センターは、子どもの権利条約総合研究所と共催し、2016(平成28)年に改正された児童福祉法が2017(平成29)年4月から施行されることを前にシンポジウム「改正児童福祉法をどう活かすか」を、2017(平成29)年2月に白山キャンパス内で開催しました。

シンポジウムでは、児童福祉法改正の経緯や変更点、それに伴って今後どのような動きが生じるかについて有識者に講演をいただきました。コーディネーターを務めたセンター長の森田明美教授は「虐待などの早期介入、解決をするための児童相談所の設置や機能の強化に加えて、子どもの権利条約の実現を法理念に明示した改正の趣旨を進めるために、自治体では子どもが健やかに育つ環境・社会づくりを進めていくことが重要である」と語りました。社会経済構造の変動により生じている貧困・所得格差、虐待などの生活困難を解消するべく、さまざまな分野での支援システムを複合的に理論化してきた本学の研究を一層推進していきます。

## 産官学連携プロジェクトで特定健康診査の受診率向上を目指す経営学科 蜂巢旭ゼミ

Department of Business Administration, Hachisu Seminar: Aiming to increase attendance rates of specific medical checkups as part of an Industry-Government-Academia operation project

Hachisu Seminar students (Department of Business Administration, Faculty of Business Administration) launched a project in Tokyo Kita-ku aimed at increasing the attendance rate of specific medical checkups, which are conducted across the country every year typically between June and August. In this project, students examined the present situation and analyzed the reasons and/or special characteristics of the people who didn't undergo their examinations. Incorporating the results of their analysis, students began a poster promotion project as a way of indirectly approaching those who didn't attend their checkup, in the hopes of increasing overall attendance rates.

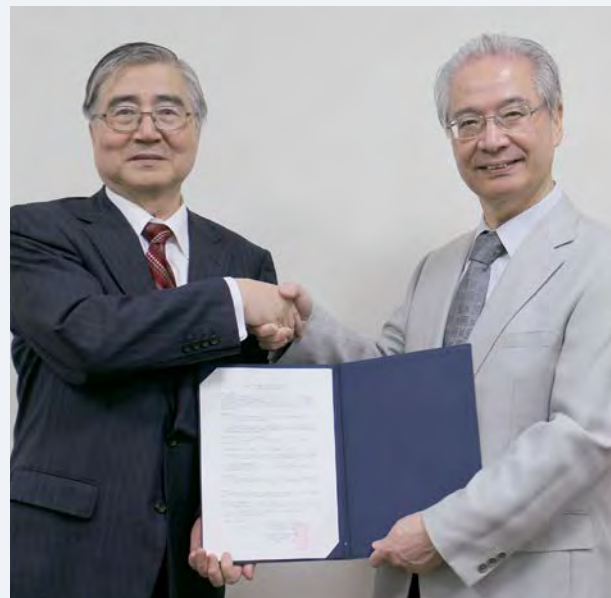
戦略論や組織論をテーマとする経営学部経営学科の蜂巢旭ゼミでは、例年6月～8月に全国で行われる特定健康診査について、東京都北区での受診率向上を目指すプロジェクトを発足しました。このプロジェクトは、東京都北区および北区を創業の地とする中外製薬株式会社と連携し、国が掲げる目標である特定健康診査の受診率60%達成を目指しています。

最初の取り組みとして、北区における特定健康診査受診に関する現状把握、不受診者の特性や理由の分析を実施。その結果を受け、不受診者へのアプローチとして「ポスターによる訴求」を北区に提案し、キャッチコピーや内容、フィールドワークによる掲出場所の検証も行いました。学生のアイデアに加え、広告代理店のデザイナーやコピーライターからのアドバイスも参考として作成するポスターは、2017(平成29)年5月上旬より順次掲出していきます。



## 麴町学園女子中学校高等学校との 高大連携に関する協定を締結

Toyo University signs agreement regarding cooperation with Kojimachi Gakuen Girls' Junior & Senior High School



In May 2016, Toyo University signed an agreement with Kojimachi Gakuen Girls' Junior & Senior High School regarding interschool cooperation. The goal of this agreement was threefold: to raise overall academic ambition and awareness of future educational pathways; to deepen understanding of Toyo University's educational content; and to plan the revitalization of each other's educational systems.

2016(平成28)年5月、東洋大学は麴町学園女子中学校高等学校(東京都千代田区)と高大連携に関する協定を締結しました。本協定は、相互に関わる連携を通じて、学習意欲や進路意識を高めるとともに東洋大学の教育内容への理解を深め、かつ、互いの教育体制への活性化を図ることを目的としています。麴町学園は高大連携を推進するクラス「東洋大学グローバルコース」を2017(平成29)年度から新設し、学生募集を行うこと、そして東洋大学は同コース生徒に対し、大学見学、Web体験授業利用講義、模擬講義および学部学科説明会を開催するなど、高大連携の教育交流活動を積極的に行います。「東洋大学グローバルコース」では麴町学園の英語科特別顧問の安河内哲也氏監修のアクティブイングリッシュなどにより、「使える英語」を身につけ、多彩なプログラムで「国際人」としての確かな力を養うことができます。

## ボランティア支援室を開設し、 市民社会の一員としての自覚を促す

Volunteer Support Office was established.  
Urging students' self-awareness as members of civil society.

In April 2017, Toyo University established Volunteer Support Office. The purposes of the establishment are supporting students who engage in volunteer activities and assisting organizations that need volunteers. Through these activities, we hope to live up to our responsibility as a member of local and international communities.

2017(平成29)年4月、学生によるボランティア活動を積極的に支援することにより、学生の自主性、社会性および他者のために奮闘する精神を育むとともに、市民社会の一員としての自覚を促すことを目的に「ボランティア支援室」を開設しました。ボランティア活動は、創立者である井上円了の思想であり、建学の精神でもある「他者のために自己を磨く」を具体化し、知育とともに人として生きることの骨格を創り出す実践機会です。

災害や子どもの貧困など、国内外のさまざまなフィールドからボランティアを求める声は日に日に大きくなっています。ボランティア活動に関する情報を共有、整理して外部に発信するとともに、ボランティア活動を希望する学生への支援やボランティア派遣を希望する外部団体の申込・相談窓口として支援室が機能することで、本学は地域社会の一員として責任に添えていきます。





## 国際交流

# グローバル化し、ボーダレスとなった 国際社会を生き抜く力を育成

Cultivating the strength to thrive in a globalized, borderless society

## INTERNATIONAL EXCHANGE

貧困、格差、紛争、環境など、地球規模で起きるさまざまな問題に立ち向かうことが求められる現在の国際社会。その中で、異文化に対する適応力や広い視野を身につけ、国際社会のイノベーションを喚起する精鋭となる学生を育成するためにも、東洋大学は多彩な施策・イベントを展開し「国際化」を強力に推進しています。

Modern international society demands the ability to stand up against global scale problems such as poverty, social inequality, military conflict, and environmental issues. In this society, Toyo University is strongly evoking internationalization by opening variegated policies and events, as well as endowing students with the ability to respond to diverse cultures, develop a wider worldview, and become experts at promoting global social innovation.

## 文部科学省 スーパーグローバル大学創成支援 「TOYO GLOBAL DIAMONDS」構想を強力に推進



### Top Global University project of the Ministry of Education, Culture, Sports, Science, and Technology (MEXT) Strong promotion of the “TOYO GLOBAL DIAMONDS” project

In 2014, Toyo University was chosen as a “Type B Top Global University,” a title that grants its internationalization efforts intensive support from MEXT. Since then, the university has established new faculties and is fervently promoting continued educational reform to cultivate skills for global success under its administrative plan, entitled “TOYO GLOBAL DIAMONDS: Becoming an Asian hub university for global leaders.”

東洋大学は2014(平成26)年に、文部科学省が大学の国際化を重点支援する「スーパーグローバル大学創成支援(タイプB)」に採択されて以降、「TOYO GLOBAL DIAMONDS グローバルリーダーの集うアジアのハブ大学を目指して」という構想のもと、大学の国際力向上のために大学改革と国際化を強力に推し進めています。

2017(平成29)年には、国際学部、国際観光学部、情報連携学部および文学部国際文化コミュニケーション学科を新設しました。いずれも、高い言語スキルと多文化理解力を身につけるとともに、現代のグローバル社会で求められる実践的かつ専門的なスキルを磨き、グローバル化した社会で縦横無尽に活躍できる人財の育成を図っています。

また、2015(平成27)年よりグローバル人財に求められる能力の強化を目的とし

て本格的にスタートした「東洋グローバルリーダー(TGL)プログラム」には、国際社会で活躍できる人財となるべく、数多くの学生が認定要件達成に向け、さまざまなプログラムにチャレンジしています。その他、アジアを中心とした学生が流動的に学ぶためのハブ大学(中継基点)の実現に向け、留学生の派遣・受入の促進や国際編入制度の確立を推進。2016(平成28)年3月時点で、2013(平成25)年と比較し、単位取得を伴う日本人学生に占める留学経験者数が350名以上増加するなど、着実な成果を挙げています。

「これからの日本、そして国際社会はどうあるべきか」を広い視野で考え続ける「人」を育成し、日本と世界の未来を拓く教育・研究拠点であり続けるために本学はさらなる進化を続けていきます。

## スーパーグローバル大学創成支援「TOYO GLOBAL DIAMONDS」構想 進捗状況



※達成率は、2023年最終目標に対する2016年度実績の割合

## プログラム開始以来初となる 「TGLシルバー認定式」を挙

### First ever recognition ceremony held for TGL Silvers

In February 2017, Toyo University held the 2016 Academic Year Toyo Global Leader (TGL) Program, TGL Silvers Recognition Ceremony. The TGL Program was enacted to help students become global human resources that can succeed both locally and internationally. In the first recognition ceremony since the program's launch, twelve students were officially recognized as TGL Silvers, for their ability to work adequately in a multicultural environment or at multinational corporations.

2017(平成29)年2月、「平成28年度 東洋グローバルリーダー(TGL)プログラム TGLシルバー認定式」を挙りました。プログラム開始以来初となる認定式では、12名の学生がTGLシルバーに認定されました。TGLプログラムは、本学の学生が国内外で活躍できるグローバル人財となるために、「異文化環境における英語運用表現能力」「文化的価値創造能力」「異文化環境における課題解決能力」の3要素を強化することを目的としています。これらの目的に沿って「Gold」「Silver」「Bronze」のランクごとに7つの認定要件を定め、各要件を満たした学生を東洋グローバルリーダーとして認定します。今回認定された12名は「海外展開する企業や多様な文化が存在する環境で、適切に対応できる人財」として本学の国際化を牽引し、国内外で活躍することが期待されます。





## UMAP25周年記念シンポジウムを開催

Symposium for the 25th anniversary of University Mobility in Asia and the Pacific (UMAP)



UMAP is an international network designed by representatives of both government and non-government organizations, and developed with the aim of promoting exchange between instructors and students within higher education institutions in the Asian Pacific region. Toyo University, which functions as an International Secretariat of UMAP, opened the symposium to celebrate the 25th anniversary of UMAP's inception. About 200 people attended, including university members and educational administration employees from all countries affiliated with UMAP, and a discussion was held about the merits and problems associated with study abroad programs.

東洋大学は、2016(平成28)年1月から2020(平成32)年12月までの5年間、UMAP(University Mobility in Asia and the Pacific/アジア太平洋大学交流機構)の国際事務局を務めています。UMAPは、アジア太平洋地域における高等教育機関間の学生・教職員の交流促進などを目的として、政府および非政府の代表からなる国際ネットワークです。2016(平成28)年9月、発足25周年を記念するシンポジウムを本学で開催し、各国のUMAP加盟大学や教育行政従事者など、高等教育関係者約200名が参加。基調講演やUMAP留学経験学生による発表などを通して、留学がもたらすメリットや課題について議論が行われました。本学は今後も、UMAPの国際事務局として、質の高い国際的な教育交流を促進していくと同時に、アジア太平洋地域内における本学のプレゼンスを高めていきます。

## 国際学部、情報連携学部で英語トラックを開始、キャンパスの国際化が加速

English track curriculum launched at Faculty of Global and Regional Studies and Faculty of Information Networking for Innovation and Design, accelerating campus internationalization

The Department of Global Innovation Studies and Department of Regional Development Studies (of the Faculty of Global and Regional Studies), as well as the Department of Information Networking for Innovation and Design (of the Faculty of Information Networking for Innovation and Design) have initiated English track curriculum, a system that allows students to obtain a degree via classes conducted only in English. Toyo University is dedicated to preparing an easy learning environment for foreign students to help promote international exchange and deepen understanding of both Japanese and foreign cultures.

2017(平成29)年度より新学部・新学科を設置し、外国人留学生の受け入れ数も大幅に増加した東洋大学。優秀な外国人留学生が本学で学ぶことで日本人学生との交流が深まり、キャンパス内の国際化が促進されています。

その一環として英語トラック(英語による授業のみで学位が取得できる制度)を国際学部グローバルイノベーション学科、国際地域学科および情報連携学部情報連携学科で開始しました。また、2016(平成28)年度の英語による授業科目は、前年度438科目の2倍を超える907科目を開講し、大幅な拡大を図りました。さらに、英語による授業運営のためのFDセミナーや研修を各学部において積極的に実施し、質の高い授業を展開しています。異文化との出会い、日本の理解が深まるように外国人留学生が本学で学びやすい環境を一層整備しています。



## 「日本留学AWARDS2016～日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先」に入賞

Japan Ryugaku Awards 2016: "Recommended University for Study Abroad Students" prize awarded, as chosen by Japanese language school faculty across the country



The Japan Ryugaku Awards 2016 awards ceremony was held in August 2016, and Toyo University was awarded as one of six private liberal arts universities in eastern Japan to be recommended to study abroad students, as voted by Japanese language schools around Japan. The university was evaluated and given the award based on two points: its university information sessions and personal inquiry reception for Japanese language school teachers; and the smoothness of its web application system.

2016(平成28)年8月、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、「日本留学AWARDS2016～日本語学校の教職員が選ぶ『留学生に勧めたい進学先』」表彰式が行われ、東日本の私立大学文系部門入賞校6校のうちの1校として、東洋大学が入賞しました。この賞には、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」採択校37校のうち11校が入賞しています。一般財団法人日本語教育振興協会が主催する「日本留学AWARDS」は、全国の日本語学校の教職員が任意で投票を行い、その集計結果から大学と大学院、専門学校のそれぞれ上位校を選出し表彰するものです。本学は、「日本語学校の教員向けに大学の説明会を実施して個別に質問を受け付けており、留学生への情報提供をより細かにできること」「Webで出願がスムーズに行えること」の2点が日本語学校から評価され、受賞に至りました。

## 日本学生支援機構優秀学生顕彰「大賞」を国際地域学部の学生が受賞

"Student of the Year Grand Prize" awarded to Faculty of Regional Development Studies student by the Japan Student Services Organization (JASSO)

Faculty of Regional Development Studies student Kazuki Takagi received JASSO's Student of the Year Grand Prize at its 2016 academic year award ceremony, for his work in Laos and production of a multiplication table song entitled "Kakezan Ku Ku no Uta." Through the "Tobitate! (Leap for Tomorrow) Study Abroad Initiative Japan Representative Program," Takagi investigated the current situation of Laos's elementary education, and made a goal of improving the students' arithmetic abilities. His song was the fruit of his labor.

独立行政法人日本学生支援機構主催による2016(平成28)年度優秀学生顕彰表彰式にて、国際地域学部3年(受賞当時)の高木一樹さんが大賞を受賞しました。これは高木さんがラオスで取り組んだ「かけ算九九のうた」制作活動が評価されたものです。高木さんは「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」に応募し、ラオスの初等教育の現状を再調査する中で算数能力の向上を目標に据え、「かけ算九九のうた」を制作。ダンスと歌詞を小学校の先生に、CDデザインを寺院のお坊さんに依頼するなど、全て現地の人に協力してもらいました。小学校1年生の授業で15日間、ダンスをしながら歌うことで、九九のテストの平均点が49点から94点まで上がり、9割の児童が満点をとれるようになりました。その後、各地から「授業で使いたい」という依頼が舞い込み、帰国するまでに838名もの小学校教員に使い方を伝えました。「かけ算九九のうた」はインターネットでも動画が見られるため、今もラオスで広がっています。





イニシアチブ・スポーツ

# 激変する社会の中で、 常に時代を先駆けていく

Amid a rapidly changing society, Constantly leading its generation

## INITIATIVE

東洋大学の教育理念の1つに「活動の中で奮闘する」とあります。現実社会における活動の中において、どこまでも前進していく姿勢を表しています。古くは私立大学初の男女共学を実現させたことをはじめ、日々新たな先端技術・価値観が生まれている今日も、常に時代を先行した取り組みを行っています。

One of Toyo University's educational policies is "fight hard in one's endeavors." It represents taking a progressive stance in one's activities in the real world. Toyo University is constantly leading its generation, from the time it became the first private co-ed university, and even now as it creates new advanced technology and value every day.

## 第30回の節目を迎えた、 東洋大学「現代学生百人一首」の功績

Welcoming the 30th turning point  
Toyo University's achievement: One Hundred Poems of Modern Students



朝日新聞出版 東洋大学「現代学生百人一首」の30年  
(2017年4月10日発行)

The One Hundred Poems of Modern Students project welcomed its 30th anniversary in 2016. One Hundred Poems of Modern Students is a Japanese poem contest that started as a commemorative project for the 100th anniversary of Toyo University's founding in 1987. Since its inception more than 1,340,000 poems have been submitted.

「現代学生百人一首」は、本学が1987(昭和62)年に創立100周年を迎えた際、「百」にちなんだ記念事業として開始した学生・生徒および児童を対象とする、短歌のコンテストであり、第30回までの累積応募数は134万首を超えます。さらに、2016(平成28)年、第30回「現代学生百人一首」が文部科学省の後援事業となったことは、本事業が教育の一環としてこれまで全国の学校の授業に活用されてきたことや、その時代の「若者の世相を映す鏡」と謳われるまでに成長した実績が認められたものと受け止めています。今回の後援を機に、「現代学生百人一首」のさらなる充実を図っていきます。

## 日本のダイバーシティ実現に向けて、 男女共学100周年記念事業を展開

Developing a commemorative project to mark the 100th anniversary of coeducation, for the realization of Japan's diversity

This school has promoted women's advancement in society since 1916, when it became the first private university to begin admitting female students. It was also the first university to inaugurate a female university president. On this 100th anniversary, Toyo University is implementing a commemorative project to further the realization of a diverse society. This university is developing a valuable commemorative project that makes very clear its determination to create a future where everyone's individuality shines brightly.

1916(大正5)年に、日本の私立大学として初めて女子学生を迎え入れ、男女共学による教育を開始した東洋大学は、私立の総合大学として初となる女性学長就任をはじめ、女子学生比率の向上など、女性の社会進出を推進してきました。そして現在、女性の社会進出が進み、多様な人材が活躍できる「ダイバーシティ」が求められる時代となりました。男女共同参画のバイオニアである本学は男女共学100周年を迎えた2016(平成28)年、ダイバーシティ社会の実現に向けた記念事業を実施。学生グループによる調査・研究企画を皮切りに、女性活躍の先進国であるフランスの国民教育・高等教育・研究大臣による講演・学生対話集会、世界で活躍する3名の外国人研究者を招聘した国際シンポジウム、事業の集大成となる男女共学100周年記念シンポジウムなどを開催。「広い層に学修の機会を提供したい」という創立者 井上円了の信念や大学の文化を受け継ぎながら柔軟で新しいグローバルな視点をもって、性別のみならず、国籍、宗教、貧富などのあらゆる壁を超えるダイバーシティを多角的に学び、共に考える機会となりました。一人ひとりの個性が輝く未来に向け、本学の新たな決意を力強く表明した、価値ある記念事業を展開しました。



[PROJECT 1]

学生参加による調査・研究企画

「男女共学 100 年の歴史と未来 —ダイバーシティ推進への新たな挑戦—」

Survey and Research Planning via Student Participation "100 years of coeducation: its history and future—new challenges for diversity promotion"

「男女共学」「女子教育」「男女共同参画」「ダイバーシティ」に関する調査・研究活動を学生たちが自ら企画・立案し、ダイバーシティある東洋大学と社会に向けた未来提言を発表しました。

[PROJECT 2]

フランス国民教育・高等教育・研究大臣による講演・学生対話集会  
「21 世紀を生きる大学とは? Quelle université pour le XXIème siècle?」

Lecture by French Minister of National Education, Higher Education and Research, and student debate conference "What is a 21st century university? Quelle université pour le XXIème siècle?"

フランスの国民教育・高等教育・研究大臣のナジャット・ヴァロー=ベルカセム氏が来校し、21 世紀の大学の姿について講演。育児と仕事の両立など幅広いテーマで学生と対話しました。

[PROJECT 3]

社会貢献センター特別講演会

「ジェンダー平等をめぐる世界の潮流 —女性と教育の果たす役割を考える—」

Center for Social Contribution special lecture "World trends surrounding gender equality—considering the roles of women and education"

日本初の国連女性差別撤廃委員会委員長として活躍する林陽子氏を迎えた特別講演会。教育における平等や世界的な問題を紹介し、国際社会にどう貢献すべきか、学生と考えました。

[PROJECT 4]

井上円了記念博物館特別展

「東洋大学 男女共学への道 —それは 100 年前に始まった—」

Inoue Enryo Memorial Museum special exhibition "Toyo University: the road to coeducation—It all started 100 years ago"

東洋大学最初的女子入学者で、後に日本で初めて男子中学校の女性教師となった栗山津彌さんをはじめ、卒業後にさまざまな分野で高い評価を得た女性たちの業績を振り返る特別展示を行いました。

[PROJECT 5]

国際シンポジウム

「ダイバーシティ空間としての大学の可能性 —女子学生入学から 100 年目に問う私たちの未来—」

International Symposium "The potential for universities as spaces for diversity—questions for the future in the 100th year of coeducation"

ストラスブール大学、ハーガ=ヘリア応用科学大学、サンパウロ大学の研究者を招いて開催。欧州やブラジルの男女参画の現状や課題点を紹介し、女性研究者の研究環境のダイバーシティ化、多様な人々による多様な学びの場として、高等教育機関としてあるべき本学の可能性を探りました。

[PROJECT 6]

男女共学 100 周年記念シンポジウム

「女性エンパワメント 未来を拓くダイバーシティ —東洋大学の女子学生入学から 100 年—」

Commemorative symposium for the 100th anniversary of coeducation at Toyo "Women's empowerment, diversity for the future—Toyo University's 100th year of coeducation"

第 1 部では普義偉内閣官房長官の基調講演、企業のダイバーシティ進捗度報告、産官学で未来を考えるパネルディスカッションを実施。第 2 部は「理系女子に懸かる日本の未来」と題したシンポジウムを開催しました。



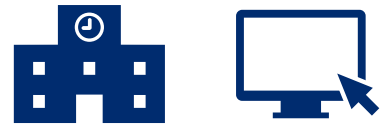
## 日本初の「Web体験授業型入試」や一般入試で 日本最大規模の「英語外部試験」を導入

Introduction of Japan's first web-based lecture-style entrance examination and largest scale external English test for the standard entrance examination

### Web体験授業型入試



Web体験授業を視聴  
レポート・プレゼンテーション資料等を作成・提出



プレゼンテーション形式の入学試験を  
大学の試験会場またはWeb会議システムで

### 英語外部試験



複数技能を測定する英語外部試験を利用する入試を導入

For the 2017 academic year, Toyo University introduced a web-based lecture-style entrance examination to the Faculty of Global and Regional Studies and Faculty of Information Networking for Innovation and Design's public application recommendation entrance examination (Type AO). A first for Japan, the entire process is carried out over the internet, from watching the lecture topic all the way to the interview. The test takers watch a web-based lecture video conducted by university instructors, and then create and submit a report and/or presentation materials that address the topic. From there, students take a presentation-style entrance exam either at the university's test site or through the web conference system. Japan's biggest scale external English examination was also introduced to the general entrance exam process. Toyo University develops globally successful human resources, and aims to evaluate test takers' English abilities and studying efforts at the highest level. Thus, this university introduced an entrance exam that incorporates external English examinations (such as TOEFL and Eiken) that assess multiple skills, among them the four main skills of English (Listening, Speaking, Reading, and Writing). With this, test takers who have produced a certain standard of results in their external English examinations can now make use of those efforts in Toyo University's entrance examinations as well.

2017(平成29)年度に開設した国際学部および情報連携学部の公募制推薦(AO型推薦入試)において、「Web体験授業型入試」を導入しました。事前課題の視聴から面接までの試験のプロセスを全てインターネットで行う入試は日本初です。受験生は本学教員が行うWeb体験授業の映像を視聴し、課題解決レポートやプレゼンテーション資料等を作成・提出。それらをもとにプレゼンテーション形式の入学試験を、大学の試験会場またはWeb会議システムを通じて行うものです。

「Web体験授業型入試」導入の狙いとしては、遠方や海外の志願者の受験にかかる経済的負担の軽減を図ることはもちろん、学力の3要素である<知識・技能><思考力・判断力・表現力><学習意欲>を多面的・総合的に評価することを目指しています。これまでにないカリキュラムや授業を導入する新学部における受験生とのマッチングの面で、Webの特性を生かし従来の面接よりも時間をかけて、筆記試験や面接では判断できない資質を見出す方法として有効です。

また、募集人員2,700人超の日本最大規模となる「英語外部試験」を一般入試に導入。グローバルに活躍する人材の育成を推進する東洋大学では、受験生の英語力や学習努力を最大限に評価することを目的に、英語4技能(聞く、話す、読む、書く)のうち複数技能を測定する英語外部試験(実用英語技能検定など)を利用する入試を導入しました。英語外部試験で一定の成果を上げている受験生にとっては、本学入試でその努力を生かすことができることに加え、事前に複数回のチャンスを得ることとなります。本学での英語外部試験の利用は、出願時に提出された該当の英語外部試験のスコアを、本学英語試験の得点として換算します。この取組みは英検(公益財団法人日本英語検定協会)から2017(平成29)年3月に日本英語検定協会賞(団体賞)を贈られ、表彰式には本学の高橋一男副学長が出席しました。

これらによって、東洋大学に入学するための門戸を広げること、学生の未来を広げていきます。

### イニシアチブ・スポーツ

## スポーツを通して 東洋大学が挑む革新

Through sports: Toyo University's innovation challenge

SPORTS

スポーツというものを考える時、そこには必ず「人」が介在し、絶えず「社会」との関わりを保っています。スポーツには「人」「社会」「世界」をさまざまにむすびつける力が備わっているのです。東洋大学の多角的な研究や、運動部の活動を生かし、スポーツを通して見える社会への貢献を追求しています。

When one thinks of sports, there inevitably lie "persons," which is subsequently and constantly connected with "society." Sports are gifted with the power to connect people, society, and the world in numerous ways. Through sports, Toyo University is pursuing a visible contribution to society by making the best use of its multilateral research and sports club activities.

## スポーツを「哲学」し、人と社会と世界をむすぶ 「TOYO SPORTS VISION」

The philosophy of sports—connecting people, society, and the world  
“TOYO SPORTS VISION”

Toyo University published its “TOYO SPORTS VISION” with an established ideology of approaching the philosophy of sports and how they connect people, society, and the world. Aiming to embody the founding spirit through sports, this university is implementing social contribution activities and developing human resources through learning about various world values and ethics as they relate to sports.

東洋大学では、2020(平成32)年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を控えた好機に、五輪閉幕後も長きにわたって継続するような東洋大学とスポーツの有機的な関係性を構築すべく、「TOYO SPORTS VISION」を掲げました。

「スポーツを『哲学』し、人と社会と世界をむすぶ。」ことを理念と定め、創立者 井上円了より脈々と受け継がれてきた「諸学の基礎は哲学にあり」という建学の精神を、スポーツを通して具現化することを目指します。学部やキャンパスの枠を飛び越えて、全ての学生が参画可能なムーブメントを構築し、スポーツを通じ、世界の多様な価値観や倫理観を学ぶことによる人材育成や社会貢献活動を実施していきます。

### TOYO SPORTS VISION

スポーツを「哲学」し、人と社会と世界をむすぶ。

1. スポーツを「する」人「みる」人「ささえる」人の育成
2. スポーツを通じた「グローバル人材」の育成
3. スポーツに関する「学術的アプローチ」の展開
4. スポーツを通じた「地域連携」の促進





## 東京オリンピック・パラリンピックに向けて 大学の教育・研究リソースを活用

Looking towards the Tokyo Olympic and Paralympic Games  
Applying university education and research resources



リオオリンピック報告会



オリンピック・パラリンピック講座

### リオオリンピック東洋大学選手団 [在学生]

萩野 公介	競泳男子400m個人メドレー	金メダル
	競泳男子200m個人メドレー	銀メダル
	競泳男子200m自由形	7位入賞
	競泳男子4×200mフリーリレー	銅メダル
内田 美希	競泳女子100m自由形	14位(準決勝)
	競泳女子4×100mフリーリレー	8位入賞
松永 大介	競泳女子4×100mメドレーリレー	10位(予選)
	陸上男子20km競歩	7位入賞
桐生 祥秀	陸上男子100m	29位(予選)
	陸上男子4×100mリレー	銀メダル
ウォルシュ ジュリアン	陸上男子400m	38位(予選)
	陸上男子4×400mリレー	13位(予選)

### リオオリンピック東洋大学選手団 [卒業生]

設楽 悠太	陸上男子10000m	29位
北島 寿典	陸上男子マラソン	94位
石川 末廣	陸上男子マラソン	36位

Toyo University is implementing and continues to implement variegated initiatives in preparation for the 2020 Tokyo Olympic and Paralympic Games. A few examples include: the holding of debriefing sessions for athletes who participated in and triumphantly returned from the Rio Olympic Games; and the opening of the "Olympic/Paralympic Courses" lecture series by instructors versed in the field of sports education on the topics of sports history and social problems, scientific approaches to training, nutritional management, and the field of sports tourism.

東洋大学では来る2020(平成32)年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて多彩な取り組みを実施しています。

2016(平成28)年に開催されたリオオリンピックでは、本学の学生5名・卒業生3名が出場。同年10月には、リオオリンピックの報告会が行われ、出場アスリートが凱旋しました。競泳の萩野公介選手は男子400m個人メドレーにおいて日本新記録を打ち立て金メダルに輝くと、男子200m個人メドレーでは銀メダル、男子4×200mフリーリレーでは銅メダルを獲得と大活躍しました。競泳女子では、内田美希選手が女子4×100mフリーリレーで8位入賞という結果を残しています。また、陸上競技では桐生祥秀選手が男子4×100mリレーでアジア新記録を更新し銀メダルを獲得したことは、日本中を感動させました。男子20km競歩に出場し、オリンピック日本人歴代最高順位の7位入賞した松永大介選手は「入賞という結果は残したが、次はメダルを目指したい」と話し、ウォルシュジュリアン選手は男子400mで予選38位となり「もっとレベルアップして、陸上短距離界を盛り上げていきたい」と抱負を語るなど、それぞれが世界の舞台で感じたことを共有しました。

また東洋大学には、スポーツ分野に精通した教員が多数在籍しています。陸上の五輪出場経験者や競泳日本代表チームのヘッドコーチなど、各分野の第一線で活躍する研究者や指導者が、東京オリンピック・パラリンピックに向けてオムニバス形式で講義を行う『オリンピック・パラリンピック講座』を開講しています。この講義は世界最高峰のスポーツの祭典という華やかな部分だけでなく、歴史や社会問題、科学的なトレーニング、栄養管理、観光分野などにも触れ、オリンピック・パラリンピックがあらゆる学問分野とリンクしていることを理解できる、総合大学ならではのラインナップとなっています。

そして、東洋大学は、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と大学連携協定を2014(平成26)年6月に締結し、さまざまな事業を展開しています。2016(平成28)年10月には東京オリンピック・パラリンピックに向けて大学生の役割を考える「東洋大学キックオフイベント～2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて～」を開催。リオでは卒業生を含めて8名のオリンピックを輩出し、バラスポーツアスリートも在学する東洋大学で、大学生の視点からオリンピック・パラリンピックを考えるイベントを行うなど、東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みを今後も続けていきます。

## 東洋大学で活躍するトップアスリートたち

Top athletes active at Toyo University

There are over 60 athletic clubs at this university, with many top athletes active on campus. Seeing athletes give all their during their intense matches is a warmly welcomed sight by all those who love sports. Even the students who are more academically inclined are greatly encouraged by the sight of athletes constantly refining their techniques.

東洋大学には60を超える体育系の部活動が存在しており、数多くのトップアスリートが活躍しています。

2016(平成28)年度も多くのアスリートが輝かしい実績を残しました。陸上競技部の男子長距離部門が第93回東京箱根間往復大学駅伝競走において総合2位に輝き、部のスローガン「その1秒をけずりだせ」を胸に仲間へと襷をつなぐ姿は、多くの人に勇気と元気を与えました。女子長距離部門では第34回全日本大学女子駅伝対校選手権大会において、過去最高順位の8位となり、創部以来の目標であった次大会のシード権の獲得を果たしました。

また、相撲部では2017(平成29)年に卒業した村田亮選手(法学部卒業、しこ名「村田」)が高砂部屋へ、大波渥選手(法学部卒業、しこ名「若隆景」)が荒汐部屋への入門を決め、2017(平成29)年三月場所(大阪)で角界デビューを飾りました。

その他、スキー部の安藤麻選手(法学部3年生)は、2017(平成29)年1月からカザフスタンで開催された第8回ユニバーシアード冬季競技大会のアルペンスキー・大回転で金メダルに、スーパー大回転で銅メダルに輝きました。安藤麻選手は第8回アジア冬季競技大会でも、アルペン女子・大回転で銀メダルを獲得しています。

各競技における厳しい戦いの中で、懸命に努力を重ねる姿は、スポーツを愛する皆様に感動を届けるとともに、日々個性を磨き、勉学に励む学生たちにとっても刺激となっています。



第93回東京箱根間往復大学駅伝競走



第34回全日本大学女子駅伝対校選手権大会



相撲部 村田亮選手(右)、大波渥選手(左)



箱根駅伝壮行会



スキー部 安藤麻選手



## 財務ハイライト

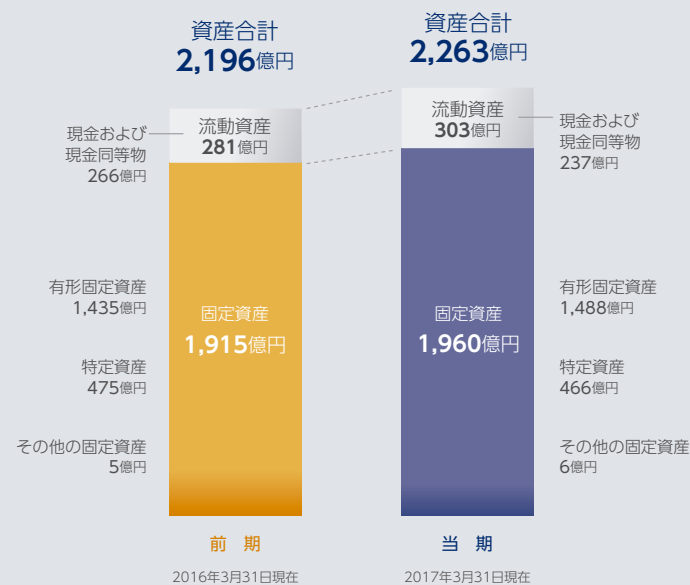
経常経費の見直しや活性化、教育研究経費比率の向上などを通じ、  
学校法人東洋大学の継続的発展の基礎となる健全な財政に基づく予算編成を行っています。

### 2016(平成28)年度 貸借対照表レビュー

#### 【資産の状況】

2016(平成28)年度末の資産総額は、2,263億4,000万円の前年度末に比べ67億5,900万円増加しました。固定資産は1,960億5,000万円となり、うち有形固定資産については、大学の白山キャンパスおよび赤羽台キャンパスで新校舎を建設したことや各キャンパスで既存校舎空調機の更新を行ったこと、附属牛久高等学校では創立50周年記念校舎新1号館(北館)を建設したことのほか、教育・研究のための機器備品や図書購入などの増加により、合計で53億900万円増加し1,488億2,600万円となりました。特定資産は、大学で赤羽台キャンパス再開発として積み上げていた将来計画施設設備引当特定資産を60億円取り崩しましたが、新学部設置準備のための引当特定資産として30億円を、減価償却引当特定資産として20億円を、それぞれ組み入れたことなどにより、合計で8億7,400万円減少し466億5,000万円となりました。その他の固定資産は、赤羽台キャンパスの教育システム開発や事務処理支援システム用ソフトウェアの追加開発などに伴い、1億4,200万円増加し6億1,900万円となりました。流動資産は現金預金が28億4,800万円減少しましたが、金銭信託が50億円増加したことなどにより21億8,300万円増加し302億8,900万円となりました。

#### 資産の状況



#### 【負債の状況】

負債総額は195億2,100万円の前年度末に比べ9億1,900万円増加しました。固定負債は退職給与引当金が6,700万円増加したことにより、87億8,300万円となりました。一方、流動負債は未払金が1億2,000万円増加したことにより10億500万円に、前受金が6億2,100万円増加したことにより88億6,400万円になったことなどにより、8億5,200万円増加し107億3,900万円となりました。

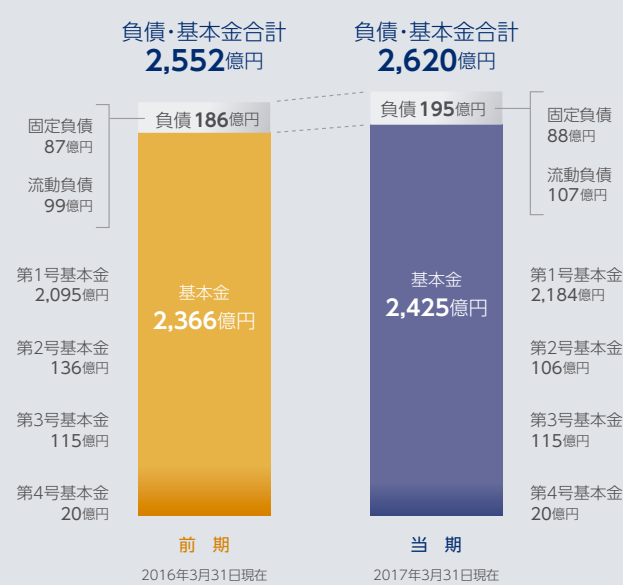
#### 【基本金の状況】

基本金は59億2,400万円増加して2,424億8,100万円となりました。このうち、第1号基本金は白山キャンパスおよび赤羽台キャンパスの新校舎建設工事、附属牛久高等学校の新校舎建設工事に係る組み入れや、施設の改修、機器備品など施設設備充実による取得や除却、また大学において2号基本金から60億円を振り替えたことにより、合計で89億2,400万円増加し2,183億8,000万円となりました。第2号基本金は、大学において60億円を第1号基本金に振り替えたこと、新学部設置準備のための引当特定資産として30億円を組み入れたことにより30億円減少し106億円となりました。

#### 【収支差額の状況】

資産総額2,263億4,000万円に対して、負債総額が195億2,100万円になったため、純資産は58億4,100万円増加し2,068億1,800万円となり、基本金が2,424億8,100万円であったため繰越収支差額はマイナス356億6,200万円となりました。なお、今年度末における減価償却累計額の合計は693億2,400万円、基本金の未組入額は2億1,300万円となりました。

#### 負債・基本金の状況

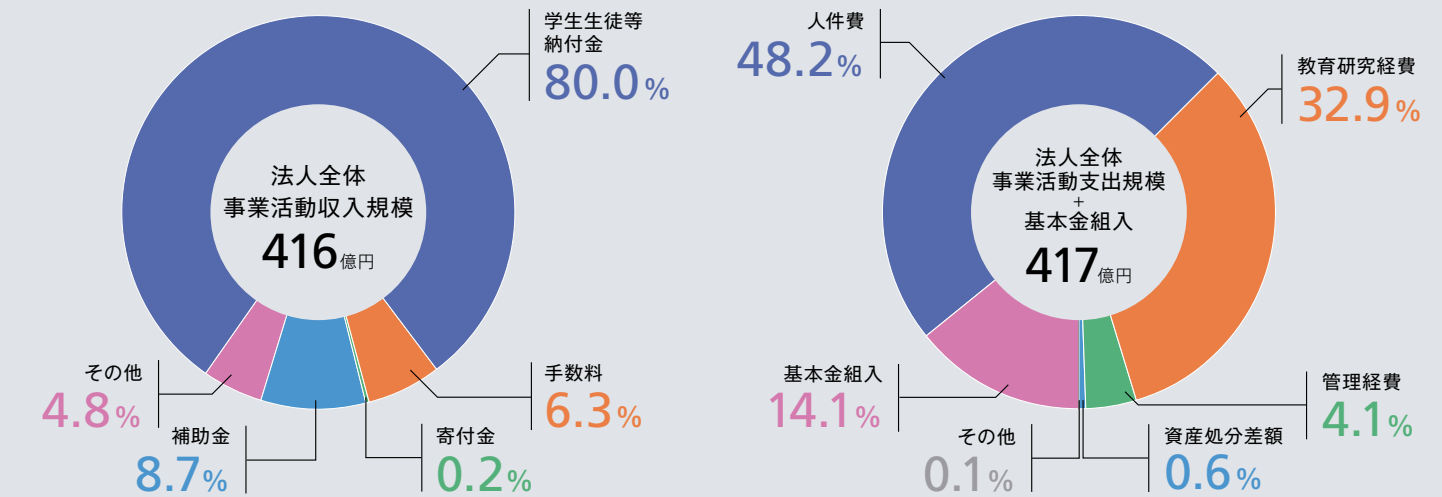


### 2016(平成28)年度 事業活動収支計算書レビュー

#### 【事業活動収入の状況】

当年度の事業活動収入の合計は416億2,000万円で、教育活動収支の主な収入項目としては、学生生徒等納付金が前年度より10億3,700万円増加し333億1,100万円に、入学検定料などの手数料が志願者数の増加に伴い前年度より3億2,400万円増加し26億1,000万円に、施設設備以外の特別寄付金や一般寄付金、現物寄付などの寄付金は前年度より3,000万円増加し1億3,200万円に、経常費等の補助金は前年度より1億円減少し36億500万円になりました。教育活動外収支では、受取利息・配当金が前年度より2,400万円減少し3億9,100万円に、特別収支では施設設備に係る寄付金、現物寄付や補助金などのその他の特別収入は1億2,400万円減少し、1億600万円になりました。

#### 2016(平成28)年度決算



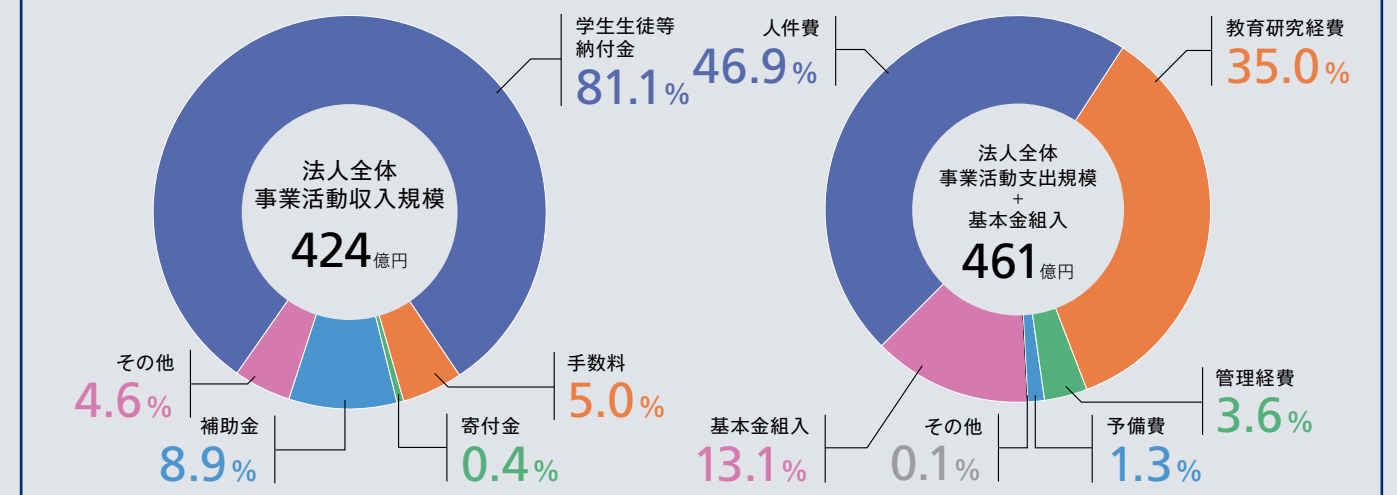
#### 【事業活動支出の状況】

当年度の事業活動支出の合計は357億7,900万円で、教育活動収支の主な支出項目としては、人件費が専任教職員の採用増加等に伴い前年度より5億9,600万円増加し201億2,000万円に、教育研究経費は前年度より6億4,800万円増加し136億4,100万円に、管理経費は1億1,700万円増加し17億2,200万円となっています。なお、全体のうち46億3,300万円は減価償却によるものです。

#### 【収支差額の状況】

教育活動収支差額に教育活動外収支差額を加えた経常収支差額は、前年度より1億2,900万円増加し60億700万円で、さらに特別収支差額を加えた基本金組入前当年度収支差額(旧帰属収支差額)は、前年度より1億600万円減少し58億4,100万円となりました。基本金組入額を差し引いた当年度収支差額はマイナス8,300万円で、翌年度繰越収支差額はマイナス356億6,200万円(支出超過)となりました。

#### 2017(平成29)年度予算規模





資金収支計算書

一事業年度における現金預金の収入及び支出の一覧です。

□ 収入の部 (単位:百万円)

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
学生生徒等納付金収入	31,426	30,992	31,264	32,274	33,311
手数料収入	2,327	2,066	2,188	2,286	2,610
寄付金収入	850	254	139	220	121
補助金収入	3,741	4,084	3,765	3,765	3,622
資産売却収入	2	1,800	2,800	406	0
付随事業・収益事業収入	282	381	466	505	661
受取利息・配当金収入	363	396	414	415	391
雑収入	872	799	769	735	796
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	7,560	7,784	8,170	8,243	8,864
その他の収入	5,027	13,939	27,995	4,505	8,788
資金収入調整勘定	△8,362	△8,684	△8,785	△8,978	△9,044
前年度繰越支払資金	27,279	28,005	21,720	23,773	26,553
収入の部合計	71,367	81,816	90,905	68,149	76,673

□ 支出の部 (単位:百万円)

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
人件費支出	18,491	18,850	19,093	19,496	20,053
教育研究経費支出	7,752	7,656	8,503	8,388	9,051
管理経費支出	1,761	1,476	1,417	1,533	1,682
借入金等利息支出	6	3	0	0	0
借入金等返済支出	113	102	0	0	0
施設関係支出	7,824	6,596	10,197	4,037	7,803
設備関係支出	2,294	1,894	1,994	899	2,282
資産運用支出	6,282	19,810	25,499	6,138	10,767
その他の支出	2,468	5,322	2,032	2,315	2,653
資金支出調整勘定	△3,629	△1,613	△1,603	△1,210	△1,323
翌年度繰越支払資金	28,005	21,720	23,773	26,553	23,705
支出の部合計	71,367	81,816	90,905	68,149	76,673

事業活動収支計算書

経営状況や財政状態を正しく理解でき、「教育の持続性」に対する判断に役立ちます。

(単位:百万円)

科目	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
<b>事業活動収入の部</b>					
学生生徒等納付金	31,426	30,992	31,264	32,274	33,311
手数料	2,326	2,066	2,188	2,286	2,610
寄付金	434	229	139	102	132
経常費等補助金	3,462	3,706	3,536	3,705	3,605
付随事業収入	282	381	466	505	661
雑収入	872	799	769	744	765
教育活動収入計	38,802	38,173	38,362	39,616	41,084
<b>事業活動支出の部</b>					
人件費	18,404	18,699	19,058	19,524	20,120
教育研究経費	11,813	12,118	12,940	12,992	13,641
管理経費	1,880	1,604	1,528	1,605	1,722
徴収不能額等	0	3	0	0	0
教育活動支出計	32,097	32,424	33,526	34,121	35,483
教育活動収支差額	6,705	5,749	4,836	5,495	5,601

活動区分資金収支計算書

活動区分ごとの現金預金の収支の明細です。

(単位:百万円)

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
<b>教育活動による資金収支</b>					
教育活動資金収入計	38,803	38,173	38,362	39,598	41,056
教育活動資金支出計	28,004	27,983	29,012	29,384	30,761
差引	10,799	10,190	9,350	10,214	10,295
調整勘定等	357	56	451	364	482
教育活動資金収支差額	11,156	10,246	9,801	10,578	10,776
<b>施設整備等活動による資金収支</b>					
施設整備等活動資金収入計	2,818	6,848	19,030	3,081	6,200
施設整備等活動資金支出計	13,238	17,258	29,454	10,583	15,227
差引	△10,420	△10,410	△10,424	△7,502	△9,028
調整勘定等	1,794	△2,018	272	△459	206
施設整備等活動資金収支差額	△8,626	△12,428	△10,152	△7,962	△8,822
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	2,530	△2,182	△351	2,617	1,954
<b>その他の活動による資金収支</b>					
その他の活動資金収入計	2,236	8,606	11,285	1,429	2,237
その他の活動資金支出計	4,040	12,709	8,881	1,267	7,051
差引	△1,804	△4,103	2,404	161	4,814
調整勘定等	0	0	0	2	11
その他の活動資金収支差額	△1,804	△4,103	2,404	163	△4,802
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	726	△6,285	2,053	2,780	△2,848
前年度繰越支払資金	27,279	28,005	21,720	23,773	26,553
翌年度繰越支払資金	28,005	21,720	23,773	26,553	23,705

(単位:百万円)

科目	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
<b>事業活動収入の部</b>					
受取利息・配当金	363	396	414	415	391
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	40
教育活動外収入計	363	396	414	415	430
<b>事業活動支出の部</b>					
借入金等利息	6	3	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	31	24
教育活動外支出計	6	3	0	31	24
教育活動外収支差額	357	393	414	384	406
経常収支差額	7,062	6,142	5,250	5,878	6,007
<b>事業活動収入の部</b>					
資産売却差額	3	72	623	271	0
その他の特別収入	775	448	284	230	106
特別収入計	778	520	907	501	106
<b>事業活動支出の部</b>					
資産処分差額	145	6,134	1,622	430	271
その他の特別支出	0	0	0	1	1
特別支出計	145	6,134	1,622	432	272
特別収支差額	633	△5,614	△715	69	△166
基本金組入前当年度収支差額	7,695	528	4,535	5,947	5,841
基本金組入額合計	△10,672	△6,796	△5,610	△5,130	△5,924
当年度収支差額	△2,976	△6,268	△1,075	817	△83
前年度繰越収支差額	△30,688	△33,665	△38,109	△36,647	△35,579
基本金取崩額	0	1,824	2,537	250	0
翌年度繰越収支差額	△33,665	△38,109	△36,647	△35,579	△35,662
(参考)					
事業活動収入計	39,944	39,090	39,683	40,532	41,620
事業活動支出計	32,249	38,562	35,148	34,584	35,779

貸借対照表

「学校法人の体力(財務状況・安全性)」を把握することができます。

(単位:百万円)

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
固定資産	180,539	184,409	188,357	191,474	196,050
流動資産	30,119	24,393	25,519	28,107	30,290
資産の部 合計	210,658	208,802	213,876	219,580	226,340
固定負債	8,907	8,730	8,693	8,716	8,783
流動負債	11,785	9,577	10,152	9,887	10,739
負債の部 合計	20,692	18,307	18,846	18,603	19,521
基本金	223,631	228,603	231,677	236,557	242,481
繰越収支差額	△33,665	△38,108	△36,647	△35,579	△35,662
純資産の部合計	189,966	190,495	195,030	200,978	206,818
負債及び純資産の部合計	210,658	208,802	213,876	219,580	226,340

財務指標

経営成績や財政状態を数値化することで、学校法人としての「安全性」や「成長性」を読み取ることができます。

主な財務比率比較

(単位:%)

比率名	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
事業活動収支差額比率 [基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入計]	19.3	1.4	11.4	14.7	14.0
基本金組入後収支比率 [事業活動支出/(事業活動収入計-基本金組入額)]	63.7	84.0	77.6	75.7	75.3
学生生徒等納付金比率 [学生生徒等納付金/経常収入]	80.2	80.4	80.6	80.6	80.2
人件費比率 [人件費/経常収入]	47.0	48.5	49.1	48.8	48.5
教育研究経費比率 [教育研究経費/経常収入]	30.2	31.4	33.4	32.5	32.9
管理経費比率 [管理経費/経常収入]	4.8	4.2	3.9	4.0	4.1
流動比率 [流動資産/流動負債]	255.6	254.7	251.4	284.3	282.1
負債比率 [総負債/純資産]	10.9	9.6	9.7	9.3	9.4
純資産構成比率 [純資産/(総負債+純資産)]	90.2	91.2	91.2	91.5	91.4
基本金比率 [基本金/基本金要組入額]	99.0	99.9	99.8	99.9	99.9
教育活動資金収支差額比率 [教育活動資金収支差額/教育活動資金収入計]	28.8	26.8	25.5	26.7	26.2

※「経常収入」=教育活動収入計+教育活動外収入計

寄付金状況

寄付金の種類	2016年度	
	金額	摘要
奨学寄付金	41,706千円	47件
教育・研究協力資金	54,202千円	682件
教育・研究協力資金(施設)	8,566千円	86件
附属牛久高校創立50周年記念事業資金(施設)	500千円	1件
その他の特別寄付金	7,896千円	8件
その他の一般寄付金	8,255千円	8件
現物寄付金	99,257千円	2,035件
合計	220,382千円	2,867件

補助金状況

(単位:千円)

補助金の種類	2016年度 補助金額
私立大学等経常費補助金	2,050,512
一般補助	1,704,907
特別補助	345,605
成長力強化に貢献する質の高い教育	2,664
社会人の組織的な受入れ	22,654
大学等の国際交流の基盤整備	58,612
大学院等の機能の高度化	149,648
授業料減免及び学生の経済的支援体制の充実	93,750
平成28年熊本地震からの復興支援	1,391
私立大学等改革総合支援事業	16,886
国際化拠点整備事業費補助金(スーパーグローバル大学創成支援)	98,529
私立学校施設整備費補助金(私立学校等改革総合支援事業)	14,968
私立大学等研究設備整備費等補助金	2,263
私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金	10,724
産学連携サービス経営人育成事業費補助金	9,311
地方公共団体等からの補助金	1,434,010
学術研究振興資金	1,500
合計	3,621,817



掲載データは本書発行時期における最新の集計結果を掲載しております。発行後に更新される情報は本学Webサイトでご確認ください。

在籍学生数 (2017年5月1日現在の暫定数であり、変更になる場合があります。)

学 部 (第1部)				学 部 (第2部)			
学部名	男性	女性	合計	学部名	男性	女性	合計
文学部	1,773	2,367	4,140	文学部	382	253	635
経済学部	2,040	837	2,877	経済学部	558	101	659
経営学部	1,909	1,240	3,149	経営学部	327	150	477
法学部	1,638	740	2,378	法学部	400	103	503
社会学部	1,250	1,948	3,198	社会学部	498	261	759
国際地域学部 (*1)	640	1,115	1,755	合計	2,165	868	3,033
国際学部	166	238	404				
国際観光学部	98	291	389				
情報連携学部	328	100	428				
ライフデザイン学部	1,061	1,334	2,395				
理工学部	2,972	534	3,506				
総合情報学部	883	310	1,193				
生命科学部	594	347	941				
食環境科学部	367	567	934				
合計	15,719	11,968	27,687				

\*1 2017年4月、国際地域学部を国際学部および国際観光学部に改組

通信教育課程

学部名	男性	女性	合計
文学部	170	465	635
法学部	168	65	233
合計	338	530	868

大学院

研究科名	男性	女性	合計
文学研究科	72	63	135
社会学研究科	27	32	59
法学研究科	9	11	20
経営学研究科	56	36	92
理工学研究科	102	18	120
工学研究科 (*2)	9	0	9
経済学研究科	54	16	70
国際地域学研究科	45	42	87
生命科学研究科	37	24	61
福祉社会デザイン研究科	57	60	117
学際・融合科学研究科	14	5	19
総合情報学研究科	14	7	21
食環境科学研究科	8	15	23
情報連携学研究科	3	0	3
合計	507	329	836

\*2 2014年4月、工学研究科を理工学研究科へ再編

附属学校等

学校名	男性	女性	合計
附属姫路高等学校	809	257	1,066
附属牛久高等学校	878	794	1,672
東洋大学京北高等学校	395	370	765
高等学校合計	2,082	1,421	3,503
附属姫路中学校	113	63	176
附属牛久中学校	92	100	192
東洋大学京北中学校	157	143	300
中学校合計	362	306	668
京北幼稚園	46	54	100

キャンパス別学生数 (学部第1部・第2部、大学院、専門職大学院)

キャンパス名	男性	女性	合計
白山キャンパス	11,971	9,877	21,848
朝霞キャンパス	1,092	1,362	2,454
川越キャンパス	3,994	874	4,868
板倉キャンパス	1,006	953	1,959
赤羽台キャンパス	331	100	431
合計	18,394	13,166	31,560

専門職大学院

研究科名	男性	女性	合計
法務研究科	3	1	4

専任教員数 (2017年5月1日現在)

学部名	教授	准教授	講師 (契約制含む)	助教	小計	助手	合計
	文学部	62	19	5	8	94	0
経済学部	40	20	5	3	68	0	68
経営学部	31	22	10	4	67	0	67
法学部	36	13	6	1	56	0	56
社会学部	46	20	7	7	80	0	80
国際学部	24	6	7	3	40	0	40
国際観光学部	17	6	6	1	30	0	30
白山キャンパス 合計	256	106	46	27	435	0	435

板倉キャンパス

学部名	教授	准教授	講師 (契約制含む)	助教	小計	助手	合計
生命科学部	20	6	3	2	31	0	31
食環境科学部	19	8	1	3	31	5	36
板倉キャンパス 合計	39	14	4	5	62	5	67

朝霞キャンパス

学部名	教授	准教授	講師 (契約制含む)	助教	小計	助手	合計
ライフデザイン学部	35	21	3	11	70	3	73

赤羽台キャンパス

学部名	教授	准教授	講師 (契約制含む)	助教	小計	助手	合計
情報連携学部	13	4	5	9	31	0	31

その他

所属	教授	准教授	講師 (契約制含む)	助教	教諭	小計	助手	合計
大学院	16	4	0	0	0	20	0	20
IR室	0	1	0	0	0	1	0	1
国際教育センター	0	3	9	0	0	12	0	12
図書事務課	0	0	0	0	1	1	0	1

学校名	教諭	助教諭	講師	教員合計
東洋大学京北中学校	22	0	1	23
東洋大学京北高等学校	48	0	2	50
京北幼稚園	7	0	0	7
合計	240	1	6	247

附属学校等教員数

学校名	教諭	助教諭	講師	教員合計
附属姫路中学校	10	0	1	11
附属姫路高等学校	65	0	0	65
附属牛久中学校	13	0	0	13
附属牛久高等学校	75	1	2	78

事務職員数 (2017年5月1日現在)

大学

身分	職員数
参事	15
副参事	18
主事	43
主事補	87
書記	227
事務職員	21
専任職員等 小計	411
常勤嘱託	74
特別嘱託	15
嘱託 小計	89
合計	500

附属学校等

学校名	参事	副参事	主事	主事補	書記	常勤嘱託	特別嘱託	職員合計
附属姫路中学校・高等学校事務室	0	0	0	1	3	8	0	12
附属牛久中学校・高等学校事務室	1	0	0	3	3	3	1	11
京北事務室	0	0	1	1	4	1	1	8
合計	1	0	1	5	10	12	2	31

留学生数・留学者数

派遣留学者数 (中途帰国者を含む)

プログラム名	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
交換留学(派遣)	50	56	59	56	69
認定留学	5	7	4	5	10
協定校語学留学(*1)	—	14	40	45	52
短期語学セミナー(*2)	166	140	147	163	123
合計	221	217	250	269	254

\*1 2013(平成25)年度から開始したプログラム \*2 国際教育センター主催のプログラムのみを対象

海外協定先等一覧 (2017年4月1日現在)

【アイルランド】  
ダブリンシティ大学 ●★  
リムリック大学 ●

【アメリカ】  
ウィノナ州立大学 ●  
オレゴン州立大学 ●  
カリフォルニア州立大学モントレーベイ校 ●  
チャタム大学 ●  
テネシー大学ノックスビル校 ●  
パデュー大学ノースウェスト校 ●  
プレスビテリアン・カレッジ ●  
ポートランド州立大学 ●★  
ミズーリ大学セントルイス校 ●  
メリヴィル大学 ●  
モンタナ大学 ●  
リンゼイウィルソン大学 ●  
ルイスクラーク州立大学 ●  
ISEP ●  
日本政策投資銀行 (ULI) ●  
米国PPP協会 (NOPPP) ●

【イギリス】  
カーディフ大学 ●  
セントラル・ランカシャー大学 ●  
ブライトン大学 ●  
ヨークセントジョン大学 ●★

【イタリア】  
トリノ大学 ●  
フィレンツェ大学 ●  
ロムアルド・デル・ピアンコ財団 ●

【インド】  
インド工科大学デリー校 ●  
インド工科大学マドラス校 ●  
ケララ大学 ●  
スリー・チトラ・トゥリニユル医療科学技術研究所 ●  
マンガラン教育協会 (マンガラン工科大学) ●

【インドネシア】  
ガジャマダ大学 ●  
スラバヤ工科大学 ●  
デンパサール・ヒンドゥー大学 ●  
マラナタ基督教大学 ●

【ウズベキスタン】  
タシケン国立東洋学大学 ●

【オーストラリア】  
インターナショナル・カレッジ・オブ・マネジメント・シドニー ●  
サザンクロス大学 ●  
サンシャインコースト大学 ●  
シーキュー大学 ●★  
ディーキン大学 ●

【オランダ】  
アムステルダム応用科学大学 ●  
フロンティス・アカデミー ●  
ロッテルダム大学ビジネススクール ●

【カナダ】  
エドモントン・コンコルディア大学 ●  
クワンテンポリテクニク大学 ●  
サスカチュワン大学 ●  
トンプソンリパース大学 ●  
バンクーバー・アイランド大学 ●  
マニトバ大学 ●  
レイクヘッド大学 ●

【韓国】  
円光大学 ●  
韓国外国語大学 ●  
韓南大学 ●  
建国大学 ●  
金剛大学 ●  
仁荷大学 ●  
成均館大学 ●  
大邱大学 ●  
東国大学 ●  
平澤市 ●

【カンボジア】  
王立プノンベン大学 ●

【ケニア】  
ジョモ・ケニヤッタ農工大学 ●

【スイス】  
ルツェルン大学 ●  
国連欧州経済委員会PPP推進局 (UNECE PPP) ●

【スウェーデン】  
リンネ大学 ●

【スペイン】  
デウスト大学 ●

【スロベニア】  
リュブリャナ大学 ●

【タイ】  
アジア工科大学院 ●  
チェンマイ大学 ●  
タマサート大学 ●  
プラナコン・シー・アユタヤ・ラチャバット大学 ●

【台湾】  
中国文化大学 ●  
天主教輔仁大学 ●  
龍華科技大学 ●  
東海大学 ●

【中国】  
華中科技大学 ●  
吉林大学 ●  
上海外国語大学 ●  
上海工程技術大学 ●  
上海対外貿易大学 ●  
大連外国語大学 ●  
大連理工大学 ●  
中国海洋大学 ●  
中国人民大学 ●  
ビエール・マリ・キョーリ大学 (パリ第6大学) ●  
復旦大学 ●  
北京語言大学 ●  
北京理工大学 ●

【フィンランド】  
ハーガ=ヘリア応用科学大学 ●

【フランス】  
シャルル・ド・ゴール大学 (リール第3大学) ●  
ストラスブル大学 ●  
ストラスブル大学経営大学院 (EMS) ●  
ストラスブル大学政治経済学研究所 (IEP) ●  
ナント大学 ●  
パリ・テドロ大学 (パリ第7大学) ●  
ピエール・マリ・キョーリ大学 (パリ第6大学) ●  
国際大学協会 (IAU) ●

【ブルガリア】  
聖クリメント・オフリツキ・ソフィア大学 ●

【ベトナム】  
パイロイト大学 ●  
ベトナム国家大学ホーチミン校 ●  
マルブルク大学 ●  
FPT大学 ●

【ニュージーランド】  
ユニテック工科大学 ●

【マレーシア】  
テイラーズ大学 ●  
マラヤ大学 ●  
マレーシア工科大学 ●

【ハンガリー】  
ハンガリー科学アカデミー原子核研究所 ●

【ハンガリアン】  
シャージャラル科技大学 ●

【フィリピン】  
カラガ州立大学 ●  
サンホセリコルトス大学 ●  
セントジョセフ工科大学 ●  
ファーザー・サトゥルニノ・ユリオス大学 ●  
フィリピン大学セブ校 ●  
フィリピン大学デリマン校 ●  
セブ州 ●  
ブトゥアン市 ●

【その他】  
UMAP ●

●...交換留学対象校  
★...協定校語学留学対象校  
◆...2016年度語学セミナー実施校

ISEP加盟校 (約300校) ●  
UMAP加盟校 (学生交換締結校) ●

UMAP (University Mobility in Asia and the Pacific: アジア太平洋大学交流機構)  
アジア太平洋地域における高等教育機関間の学生・教職員の交流促進を目的として1993年に設立された団体で、同地域の単位互換による学生交流を進めています。UMAP加盟校 (約500校) は、UMAPのWebサイト (http://www.umap.org/en/home/index.php) より確認できます。

出身国別留学者数 (2017年5月1日現在)

掲載データは本書発行時期における最新の集計結果を掲載しております。発行後に更新される情報は本学Webサイトでご確認ください。

国	学部 (第1部) 合計	大学院 合計	総合計
アメリカ	2	4	6
アルゼンチン	1	1	2
イタリア	2	3	5
インド	4	4	8
インドネシア	14	1	15
ウズベキスタン	1	1	2
韓国	1	6	7
ガンビア	1	1	2
カンボジア	1	1	2
サウジアラビア	3	3	6
シンガポール	1	1	2
スイス	1	1	2
スリランカ	1	1	2
セネガル	1	1	2
ソロモン	2	2	4
タイ	10	2	12
台湾	14	14	28
タンザニア	2	2	4
中国	527	164	691
チュニジア	1	1	2
トルコ	1	1	2
ナミビア	3	4	7
ネパール	3	4	7
フィジー	1	1	2
フィリピン	1	1	2
フィンランド	1	1	2
ブラジル	2	2	4
フランス	3	3	6
ブルガリア	1	1	2
ベトナム	47	63	110
ボツワナ	1	1	2
マレーシア	20	20	40
南アフリカ	6	6	12
ミャンマー	8	8	16
モロッコ	1	1	2
モンゴル	2	2	4
ルワンダ	1	1	2
ロシア	1	1	2
学部 (第1部) 合計	710	213	923



科学研究費助成事業の保有件数  
および保有金額

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
保有件数	158	162	165	187
保有金額 (単位:千円)	276.350	257.390	272.000	320.281

外部資金による研究件数

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
科学研究費助成事業	148	158	162	165	187
私立大学戦略的 研究基盤形成支援事業	10	9	10	9	6
共同研究・受託研究	51	54	43	51	59
奨学寄付金	31	41	42	29	46
合計	240	262	257	254	298

学位授与状況 (2016年4月~2017年3月授与分)

研究科	9月修了		3月修了		博士(論文)	合計
	修士	博士(課程)	修士	博士(課程)		
文学研究科	0	0	23	2	2	27
社会学研究科	0	0	10	0	1	11
法学研究科	0	0	14	1	0	15
経営学研究科	0	0	27	0	0	27
経済学研究科	6	0	22	0	0	28
国際地域学研究科	3	1	25	3	0	32
福祉社会デザイン研究科	3	1	25	5	0	34
理工学研究科	1	0	65	1	0	67
工学研究科	0	2	0	1	0	3
学際・融合科学研究科	1	1	9	4	0	15
生命科学研究科	0	0	29	0	0	29
合計	14	5	249	17	3	288

	9月修了	3月修了	合計
法科大学院 法務研究科	1	4	5

図書館データ

図書所蔵数 (2017年3月31日現在)

	和書	洋書	合計
白山図書館	740,110	257,800	997,910
川越図書館	139,136	61,234	200,370
朝霞図書館	241,841	21,848	263,689
板倉図書館	63,765	10,153	73,918

科学研究費新規応募採択状況 (第1回交付内定時)

2013年度			2014年度			2015年度			2016年度		
申請数	採択数	採択率	申請数	採択数	採択率	申請数	採択数	採択率	申請数	採択数	採択率
161	42	26.1%	188	52	27.7%	179	41	22.9%	229	67	29.3%

外部資金による研究費

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
科学研究費助成事業	254,860	276,350	257,390	272,000	320,281
私立大学戦略的 研究基盤形成支援事業	136,210	107,365	141,813	129,665	48,633
共同研究・受託研究	116,233	115,269	94,843	132,090	163,801
奨学寄付金	19,294	40,005	31,286	30,239	41,605
合計	526,597	538,989	525,332	563,994	574,320

発明届出数

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
発明届出数	27	19	14	15	12

特許出願件数

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
単独出願	20	14	9	13	8
共同出願	5	5	1	3	3
合計	25	19	10	16	11

センター利用入試・一般入試・総合問題入試・実技入試 (第1部)

学部	学科(専攻)	志願者数	合格者数
文学部	哲学科	1,495	339
	東洋思想文化学科	1,051	308
	日本文学文化学科	2,622	480
	英米文学科	2,167	588
	史学科	2,460	536
	教育学科(人間発達)	1,097	365
	教育学科(初等教育)	1,287	198
	国際文化コミュニケーション学科	2,570	402
文学部 合計	14,749	3,216	
経済学部	経済学科	6,585	1,171
	国際経済学科	2,507	696
	総合政策学科	3,078	657
経済学部 合計	12,170	2,524	
経営学部	経営学科	6,543	1,174
	マーケティング学科	3,962	618
	会計ファイナンス学科	2,801	565
経営学部 合計	13,306	2,357	
法学部	法律学科	4,949	996
	企業法学科	3,584	669
法学部 合計	8,533	1,665	
社会学部	社会学科	4,897	928
	社会文化システム学科	1,845	512
	社会福祉学科	1,499	353
	メディアコミュニケーション学科	2,585	542
	社会心理学科	2,407	435
	社会学部 合計	13,233	2,770
国際学部	グローバル・イノベーション学科	1,982	252
	国際地域学科(国際地域)	2,892	759
国際学部 合計	4,874	1,011	
国際観光学部	国際観光学科	5,741	919
国際観光学部 合計	5,741	919	
情報連携学部	情報連携学科	2,968	970
	情報連携学部 合計	2,968	970
ライフデザイン学部	生活支援学科(生活支援学)	867	349
	生活支援学科(子ども支援学)	717	260
	健康スポーツ学科	2,385	566
	人間環境デザイン学科	1,351	409
ライフデザイン学部 合計	5,320	1,584	
理工学部	機械工学科	2,418	948
	生体医工学科	804	461
	電気電子情報工学科	1,951	654
	応用化学科	1,290	619
	都市環境デザイン学科	1,632	511
	建築学科	2,368	576
理工学部 合計	10,463	3,769	
総合情報学部	総合情報学科	2,465	806
総合情報学部 合計	2,465	806	
生命科学部	生命科学科	1,223	548
	応用生物科学科	993	513
生命科学部 合計	2,216	1,061	
食環境科学部	食環境科学科(フードサイエンス)	723	291
	食環境科学科(スポーツ・食品機能)	362	150
	健康栄養学科	582	251
食環境科学部 合計	1,667	692	
第1部 合計	97,705	23,344	

センター利用入試・一般入試 (第2部・イブニングコース)

学部	学科(専攻)	志願者数	合格者数
文学部	東洋思想文化学科	244	97
	日本文学文化学科	289	96
	教育学科	165	80
第2部 文学部 合計	698	273	
経済学部	経済学科	618	227
第2部 経済学部 合計	618	227	
経営学部	経営学科	352	133
第2部 経営学部 合計	352	133	
法学部	法律学科	505	177
第2部 法学部 合計	505	177	
社会学部	社会学科	728	296
	社会福祉学科	281	100
第2部 社会学部 合計	1,009	396	
国際学部	国際地域学科(地域総合)	293	124
国際学部(イブニングコース) 合計	293	124	
第2部・イブニングコース 合計	3,475	1,330	

推薦入試 (学校推薦/「独立自活」支援推薦/自己推薦/AO型推薦)

学部	学科(専攻)	志願者数	合格者数	
文学部	哲学科	47	28	
	東洋思想文化学科	34	20	
	日本文学文化学科	55	14	
	教育学科(人間発達)	18	10	
	教育学科(初等教育)	13	5	
	国際文化コミュニケーション学科	39	12	
	国際経済学科	19	13	
	総合政策学科	38	19	
	法律学科	57	30	
	企業法学科	66	35	
社会学部	社会学科	61	24	
	社会福祉学科	43	30	
国際学部	グローバル・イノベーション学科	16	12	
国際学部	国際地域学科(国際地域)	42	36	
国際観光学部	国際観光学科	304	97	
第1部	情報連携学部	情報連携学科	85	60
	ライフデザイン学部	生活支援学科(生活支援学)	20	19
		生活支援学科(子ども支援学)	32	15
		健康スポーツ学科	68	11
		人間環境デザイン学科	53	39
	理工学部	機械工学科	3	2
		生体医工学科	2	2
		応用化学科	3	3
		都市環境デザイン学科	7	5
		建築学科	16	11
総合情報学部	総合情報学科	12	12	
生命科学部	生命科学科	5	5	
食環境科学部	応用生物科学科	7	7	
	食環境科学科(フードサイエンス)	6	4	
	食環境科学科(スポーツ・食品機能)	7	7	
	健康栄養学科	30	7	
第1部 合計	1,208	594		
第2部・イブニングコース	東洋思想文化学科	5	5	
	日本文学文化学科	32	15	
	教育学科	9	7	
	経済学部	50	37	
	経営学部	22	19	
	法学部	51	44	
	社会学部	23	21	
	社会学部	12	9	
	国際学部	国際地域学科(地域総合)	35	17
	第2部・イブニングコース 合計	239	174	
合計	1,447	768		

大学院 博士前期・修士課程

研究科	志願者数		合格者数	
	秋入学	4月入学	秋入学	4月入学
文学研究科		53		32
社会学研究科		64		25
法学研究科		8		4
経営学研究科	2	107	1	44
経済学研究科	4	47	4	34
国際地域学研究科	36	42	19	17
福祉社会デザイン研究科	2	44	0	27
理工学研究科	3	61	0	57
学際・融合科学研究科	0	8	0	8
生命科学研究科	1	37	1	33
総合情報学研究科	0	14	0	14
食環境科学研究科	0	14	0	12
情報連携学研究科		6		3
合計	48	505	25	310

大学院 博士後期課程

研究科	志願者数		合格者数	
	秋入学	4月入学	秋入学	4月入学
文学研究科		12		11
社会学研究科		6		5
法学研究科		1		0
経営学研究科	0	6	0	5
経済学研究科		0		0
国際地域学研究科	2	7	1	5
福祉社会デザイン研究科		7		5
理工学研究科	0	0	0	0
学際・融合科学研究科	0	3	0	3
生命科学研究科	1	1	1	1
合計	3	43	2	35

附属学校等

学校名	志願者数	合格者数
附属姫路中学校	203	92
附属姫路高等学校	3,482	3,434
附属牛久中学校	126	116
附属牛久高等学校	1,979	1,707
東洋大学京北中学校	941	287
東洋大学京北高等学校	418	305
京北幼稚園	76	40



第1部学部別就職状況

学部別		(単位:%)			
学部名		就職者率	進学率	進路決定率	就職率
文学部	男	68.9	7.1	76.1	97.2
	女	84.1	3.0	87.1	98.2
	計	78.1	4.6	82.7	97.9
経済学部	男	87.6	1.2	88.8	97.9
	女	91.3	1.2	92.4	98.1
	計	88.7	1.2	89.9	98.0
経営学部	男	88.9	2.2	91.0	99.0
	女	94.2	0.7	94.9	100.0
	計	90.9	1.6	92.5	99.4
法学部	男	88.7	1.3	90.1	98.8
	女	90.8	2.5	93.3	98.7
	計	89.4	1.7	91.0	98.8
社会学部	男	86.6	1.1	87.7	100.0
	女	90.5	2.9	93.4	99.5
	計	89.3	2.3	91.6	99.6
国際地域学部	男	87.1	2.0	89.1	100.0
	女	92.7	2.4	95.1	99.3
	計	90.8	2.3	93.1	99.5

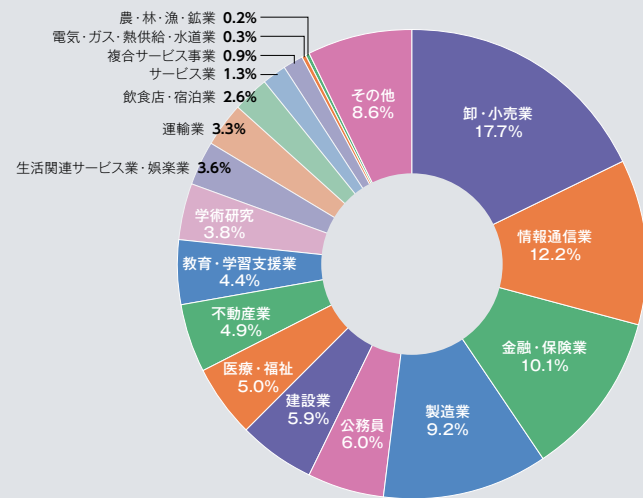
学部別		(単位:%)			
学部名		就職者率	進学率	進路決定率	就職率
ライフデザイン学部	男	87.6	5.1	92.6	96.0
	女	93.1	2.2	95.3	97.7
	計	90.8	3.4	94.2	97.0
理工学部	男	82.8	11.4	94.1	99.0
	女	75.2	17.1	92.4	98.8
	計	81.7	12.2	93.9	99.0
総合情報学部	男	80.1	4.6	84.7	93.5
	女	92.9	2.4	95.2	97.5
	計	83.9	3.9	87.9	94.8
生命科学部	男	69.4	21.5	91.0	95.2
	女	76.3	15.8	92.1	98.3
	計	71.8	19.5	91.4	96.3
食環境科学部	男	88.4	8.7	97.1	98.4
	女	90.1	6.6	96.7	98.6
	計	89.5	7.3	96.8	98.5
合計	男	83.6	5.5	89.1	98.0
	女	89.2	3.6	92.8	98.7
	計	86.1	4.7	90.8	98.3

就職者率 = 就職者数 ÷ 卒業生数 × 100  
 進学率 = 進学者数 ÷ 卒業生数 × 100  
 進路決定率 = (就職者数 + 進学者数) ÷ 卒業生数 × 100  
 就職率 = 就職者数 ÷ 就職希望者数 (就職者数 + 卒業時点で就職活動中の者) × 100  
 ※学部名については卒業生在籍時の名称を適用

主な就職先

- |   |  |  |   |   |
|---|--|--|---|---|
| <p>【第1部 全学部】<br/>                 (株)JT Bグループ<br/>                 警視庁<br/>                 埼玉県教育委員会<br/>                 東日本旅客鉄道(株)(JR東日本)<br/>                 日本郵便(株)<br/>                 東京都教育委員会<br/>                 (株)みずほフィナンシャルグループ<br/>                 (株)ベネッセスタイルケア<br/>                 ANAエアポートサービス(株)<br/>                 (株)三井住友銀行</p>  | <p>【第1部 経営学部】<br/>                 スターツコーポレーション(株)<br/>                 (株)みずほフィナンシャルグループ<br/>                 (株)オリエントコーポレーション<br/>                 (株)千葉銀行<br/>                 (株)ゆうちょ銀行<br/>                 (株)三井住友銀行<br/>                 (株)かんぽ生命保険<br/>                 (株)ニトリ<br/>                 (株)マイナビ<br/>                 東日本旅客鉄道(株)(JR東日本)</p> | <p>【第1部 国際地域学部】<br/>                 (株)JT Bグループ<br/>                 ANAエアポートサービス(株)<br/>                 (株)ジェイアール東海ツアーズ<br/>                 トレンドマイクロ(株)<br/>                 (株)ぐるなび<br/>                 東日本旅客鉄道(株)(JR東日本)<br/>                 日本郵便(株)<br/>                 スターツコーポレーション(株)<br/>                 日本航空(株)<br/>                 楽天(株)<br/>                 東海旅客鉄道(株)(JR東海)</p> | <p>【第1部 総合情報学部】<br/>                 (株)NSD<br/>                 日本郵便(株)<br/>                 トレンドマイクロ(株)<br/>                 (株)マイナビ<br/>                 (株)ゆうちょ銀行<br/>                 スターツケアサービス(株)<br/>                 ソフトバンク(株)<br/>                 警視庁<br/>                 大和ハウス工業(株)<br/>                 東京都教育委員会</p>                        | <p>【第2部 全学部】<br/>                 東日本旅客鉄道(株)(JR東日本)<br/>                 住友生命保険(相)<br/>                 日本郵便(株)<br/>                 (株)マイナビ<br/>                 (株)ゆうちょ銀行<br/>                 スターツケアサービス(株)<br/>                 ソフトバンク(株)<br/>                 警視庁<br/>                 大和ハウス工業(株)<br/>                 東京都教育委員会</p>                  |
| <p>【第1部 文学部】<br/>                 東京都教育委員会<br/>                 埼玉県教育委員会<br/>                 千葉県教育委員会<br/>                 日本郵便(株)<br/>                 警視庁<br/>                 神奈川県教育委員会<br/>                 全日本空輸(株)<br/>                 東日本旅客鉄道(株)(JR東日本)<br/>                 (株)ビジネスオリコ<br/>                 日本生命保険(相)</p>                       | <p>【第1部 法学部】<br/>                 警視庁<br/>                 東日本旅客鉄道(株)(JR東日本)<br/>                 日本郵便(株)<br/>                 (株)東京市民銀行<br/>                 第一生命保険(株)<br/>                 (株)インテリジェンス<br/>                 (株)千葉銀行<br/>                 東急リパブリック<br/>                 東京国税局</p>   | <p>【第1部 ライフデザイン学部】<br/>                 (株)ベネッセスタイルケア<br/>                 埼玉県教育委員会<br/>                 エイツヘルスケア(株)(伊藤忠グループ)<br/>                 (株)新日本科学PPD<br/>                 わらべや日洋(株)<br/>                 (株)栃木銀行<br/>                 全業工業(株)<br/>                 ホクト(株)<br/>                 一般(財)日本食品分析センター<br/>                 日本食研ホールディングス(株)<br/>                 森永乳業(株)</p>     | <p>【第1部 生命科学部】<br/>                 埼玉県教育委員会<br/>                 エイツヘルスケア(株)(伊藤忠グループ)<br/>                 (株)新日本科学PPD<br/>                 わらべや日洋(株)<br/>                 (株)栃木銀行<br/>                 全業工業(株)<br/>                 ホクト(株)<br/>                 一般(財)日本食品分析センター<br/>                 日本食研ホールディングス(株)<br/>                 森永乳業(株)</p>   | <p>【第1部 食環境科学部】<br/>                 エムサービス(株)<br/>                 (株)武蔵野<br/>                 キョコマンソイフーズ(株)<br/>                 戸田中央医科グループ(TMG)<br/>                 第一屋製パン(株)<br/>                 上尾市役所<br/>                 ヤマハ発動機(株)<br/>                 味の素冷凍食品(株)<br/>                 (株)日本レストランエンタプライズ<br/>                 イオンフードサプライ(株)</p> |
| <p>【第1部 経済学部】<br/>                 (株)みずほフィナンシャルグループ<br/>                 (株)千葉興業銀行<br/>                 SMBC日興証券(株)<br/>                 警視庁<br/>                 (株)オリエントコーポレーション<br/>                 (株)三井住友銀行<br/>                 ANAエアポートサービス(株)<br/>                 あいおいニッセイ同和損害保険(株)<br/>                 (株)千葉銀行<br/>                 静岡県庁</p> | <p>【第1部 社会学部】<br/>                 (株)ベネッセスタイルケア<br/>                 (株)みずほフィナンシャルグループ<br/>                 全国労働者共済生活協連(全労済)<br/>                 (株)マイナビ<br/>                 (株)三井住友銀行<br/>                 スターツケアサービス(株)<br/>                 横浜市役所<br/>                 花王カスターマーマーケティング(株)<br/>                 千葉県庁<br/>                 日本赤十字社</p>      | <p>【第1部 理工学部】<br/>                 積水ハウス(株)<br/>                 東日本旅客鉄道(株)(JR東日本)<br/>                 富士ソフト(株)<br/>                 (株)シード<br/>                 東京都庁<br/>                 セイコーエプソン(株)<br/>                 ヤマハ発動機(株)<br/>                 カバヤ食品株式会社<br/>                 YKKAP株式会社<br/>                 マツダ株式会社</p>  | <p>【第1部 食環境科学部】<br/>                 エムサービス(株)<br/>                 (株)武蔵野<br/>                 キョコマンソイフーズ(株)<br/>                 戸田中央医科グループ(TMG)<br/>                 第一屋製パン(株)<br/>                 上尾市役所<br/>                 ヤマハ発動機(株)<br/>                 味の素冷凍食品(株)<br/>                 (株)日本レストランエンタプライズ<br/>                 イオンフードサプライ(株)</p> |   |

業種別就職状況 (第1部学部)



Uターンエリア別就職状況 (第1部・第2部学部合計)

出身都道府県	Uターン就職者数	就職者数	出身都道府県	Uターン就職者数	就職者数	出身都道府県	Uターン就職者数	就職者数
北海道	5	46	石川	4	24	岡山	1	7
青森	3	19	福井	2	3	広島	4	14
岩手	1	15	山梨	9	33	山口	0	6
宮城	10	31	長野	62	137	徳島	0	3
秋田	3	21	岐阜	0	8	香川	0	6
山形	6	32	静岡	40	109	愛媛	3	7
福島	19	84	愛知	4	26	高知	0	10
茨城	78	299	三重	1	13	福岡	3	17
栃木	51	145	滋賀	0	2	佐賀	0	1
群馬	35	142	京都	1	5	長崎	0	5
埼玉	292	1,378	大阪	1	13	熊本	0	11
千葉	144	751	兵庫	4	23	大分	0	1
東京	1,040	1,236	奈良	1	3	宮崎	1	6
神奈川	75	452	和歌山	1	3	鹿児島	1	6
新潟	45	158	鳥取	3	5	沖縄	1	5
富山	15	36	島根	0	1	その他	0	26
合計			合計	1,969	5,384			

■就職者数：出身地別の就職した卒業生数  
 ■Uターン就職者数：就職者のうち、出身地に本社がある企業へ就職した卒業生数  
 ※本社所在地と勤務地は異なる場合もあります。  
 ■その他：留学生等

教育職員免許状申請状況 (2017年3月1日現在)

白山キャンパス

学部	申請者数	小1種	中1種						高1種						特支1種	教科計	
			国語	社会	国語	書道	地歴	公民	国語	書道	地歴	公民	宗教	商業			英語
文学部	171	43	30	70	0	26	31	4	64	62	0	26	0	0	0	27	383
経済学部	10	0	0	7	0	0	0	0	6	9	0	0	0	0	2	0	24
経営学部	7	0	0	6	0	0	0	0	2	5	0	2	0	0	0	0	15
法学部	14	0	0	12	0	0	0	0	10	11	0	0	0	0	0	0	33
社会学部	6	0	0	6	0	0	0	0	4	5	0	0	0	0	0	0	15
国際地域学部	11	0	0	10	0	0	0	0	10	8	0	0	0	0	0	0	28
科目等履修生	5	0	0	1	0	2	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	7
第1部 合計	224	43	30	112	0	28	31	4	97	100	0	2	29	0	2	27	505
文学部	25	0	10	13	0	0	10	1	10	13	0	0	0	0	0	0	57
経済学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経営学部	7	0	0	3	0	0	0	0	1	4	0	3	0	0	0	0	11
法学部	3	0	0	2	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	7
社会学部	2	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	4
科目等履修生	3	0	0	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	6
第2部 合計	40	0	10	21	0	0	10	1	16	24	0	3	0	0	0	0	85
白山キャンパス 合計	264	43	40	133	0	28	41	5	113	124	0	5	29	0	2	27	590

白山キャンパス通信教育課程

学部	申請者数	中1種			高1種			教科計
		国語	社会	国語	書道	地歴	公民	
文学部	1	0	0	1	0	0	0	1
法学部	0	0	0	0	0	0	0	0
科目等履修生	0	0	0	0	0	0	0	0
白山キャンパス通信教育課程 合計	1	0	0	1	0	0	0	1

川越キャンパス

学部	申請者数	中1種			高1種			教科計
		数学	理科	数学	理科	情報	工業	
理工学部	45	15	17	19	20	0	12	83
総合情報学部	4	0	0	0	0	4	0	4
川越キャンパス 合計	49	15	17	19	20	4	12	87

朝霞キャンパス

学部	申請者数	幼1種	養1種	中1種			高1種				教科計
				保健	社会	英語	保健	保健体育	工業	福祉	
ライフデザイン学部	130	78	13	5	35	5	37	0	0	2	175

専修免許状

研究科	申請者数	小専修	中専修						高専修						特支専修	教科計	
			国語	社会	英語	数学	理科	宗教	国語	地歴	公民	英語	数学	理科			宗教
文学研究科	4	0	3	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	8
経済学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経営学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
法学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国際地域学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
工学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
理工学研究科	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
生命科学研究科	5	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0	10
専修免許状 合計	10	0	3	0	0	0	6	1	3	0	0	6	1	0	0	0	20

教育職員免許状  
申請者数 合計

483名



# 社会と共生し、進化を続ける学校法人東洋大学

Toyo University: coexisting with society, continuing to evolve

1887(明治20)年に始まった小さな「私立哲学館」。  
今では学校法人東洋大学として、多領域に広がる活動を行っています。

What started as the Philosophy Academy in 1887, today continues as Toyo University Incorporated Educational Institution that engages in activities across a wide range of academic areas.



評議員会  
Council

理事会  
Board of Trustees

監事  
Auditors

事務局  
Administrative

**東洋大学**  
Toyo University  
各分野の学術理論を教育・研究し、その本質を究めるとともに、人格形成に努め、日本および世界の文化向上に貢献しうる人材を養成

**東洋大学附属姫路中学校・高等学校**  
Toyo University Himeji Junior and Senior High School  
中高一貫体制で、難関国立大現役合格を目指しつつ、豊かな人間力を育む教育を実施

**東洋大学附属牛久中学校・高等学校**  
Toyo University Ushiku Junior and Senior High School  
2015(平成27)年度より中学校を開設し、中高一貫体制で国際理解教育を推進

**東洋大学京北中学高等学校**  
Toyo University Keihoku Junior and Senior High School  
2015(平成27)年度より男女共学とし、哲学教育・国際教育・キャリア教育を重視した教育を展開

**京北幼稚園**  
Keihoku Kindergarten  
思考力や表現力を会得し、知・徳・体のバランスが取れた成長を促す保育を実施

**内部監査室**  
Office for Internal Control  
コンプライアンス・法遵守の精神に基づき、不正の調査・検証・改善を実施

**産官学連携推進センター**  
Industry-Government-Academia Partnership Center  
研究所や研究センターなどで生まれた知的財産を整備・管理し、社会へ有効に還元

**学部**  
Faculty  
多様な教育プログラムを通じ、「ものの見方・考え方」の確立を実現

**大学院**  
Graduate School  
多岐にわたる専門分野で、物事の本質を深く究めるために教育・研究活動を実施

**専門職大学院(法科大学院)**  
Professional Graduate School(Law School)  
社会に貢献すると同時に、自己の専門分野を確立し、新たな課題に挑戦する法曹を養成

**学術研究推進センター**  
Center for Academic Research Promotion  
全学的な研究プロジェクトを推進し、高度で個性的な研究活動を進める各種機関を統括

**研究所**  
Research Institute  
産業界や各地の研究機関との交流により、最先端の知識を蓄積・発展させて社会へ発信

**国際教育センター**  
Center for Global Education and Exchange  
東洋大学への留学・国際交流と、私費留学生に対する各種支援を展開

**社会貢献センター**  
Center for Social Contribution  
人材育成、研究成果の公開を通して、大学が立地する地域および国際社会への貢献を推進

**井上円了記念博物館**  
Inoue Enryō Memorial Museum  
建学の精神を広くアピールし、展覧会などを通じて地域社会の学習ニーズを充足

**高等教育推進センター**  
Center for Higher Education Promotion  
教育の質の保証と向上の視点から、教育活動の継続的な改善を推進・支援

**IR室**  
Institutional Research Room  
学内外の諸情報の集約・分析を行い、教育・研究活動の活性化と意思決定・政策形成の支援を実施

**附属図書館**  
Library  
教育機会の開放と学修・研究支援の場として、白山・朝霞・川越・板倉の4キャンパスに設置

学部  
Faculty

**文学部** Faculty of Letters  
哲学科/東洋思想文化学科★/日本文学文化学科★※/英米文学科/史学科/教育学科★/国際文化コミュニケーション学科

**経済学部** Faculty of Economics  
経済学科★/国際経済学科/総合政策学科

**経営学部** Faculty of Business Administration  
経営学科★/マーケティング学科/会計ファイナンス学科

**法学部** Faculty of Law  
法律学科★※/企業法学科

**社会学部** Faculty of Sociology  
社会学科★/社会文化システム学科/社会福祉学科★/メディアコミュニケーション学科/社会心理学科

**国際学部** Faculty of Global and Regional Studies  
グローバル・イノベーション学科/国際地域学科★

**国際観光学部**  
Faculty of International Tourism Management  
国際観光学科

**情報連携学部**  
Faculty of Information Networking for Innovation and Design  
情報連携学科

**ライフデザイン学部** Faculty of Human Life Design  
生活支援学科/健康スポーツ学科/人間環境デザイン学科

**理工学部** Faculty of Science and Engineering  
機械工学科/生体医工学科/電気電子情報工学科/応用化学科/都市環境デザイン学科/建築学科

**総合情報学部** Faculty of Information Sciences and Arts  
総合情報学科

**生命科学部** Faculty of Life Sciences  
生命科学科/応用生物科学科

**食環境科学部** Faculty of Food and Nutritional Sciences  
食環境科学科/健康栄養学科

大学院  
Graduate School

**文学研究科** Graduate School of Letters  
哲学専攻/インド哲学仏教学専攻/日本文学文化専攻/中国哲学専攻/英文学専攻/史学専攻/教育学専攻/英語コミュニケーション専攻

**社会学研究科** Graduate School of Sociology  
社会学専攻/社会心理学専攻

**法学研究科** Graduate School of Law  
私法学専攻/公法学専攻

**経営学研究科** Graduate School of Business Administration  
経営学専攻/ビジネス・会計ファイナンス専攻★/マーケティング専攻

**理工学研究科** Graduate School of Science and Engineering  
生体医工学専攻/応用化学専攻/機能システム専攻/電気電子情報専攻/都市環境デザイン専攻 ■/建築学専攻 ■/建築・都市デザイン専攻 ■

**経済学研究科** Graduate School of Economics  
経済学専攻/公民連携専攻★ ■

**国際地域学研究科**  
Graduate School of Regional Development Studies  
国際地域学専攻/国際観光学専攻

**生命科学研究科** Graduate School of Life Sciences  
生命科学専攻

**福祉社会デザイン研究科**  
Graduate School of Welfare Society Design  
社会福祉学専攻/福祉社会システム専攻★ ■/ヒューマンデザイン専攻/人間環境デザイン専攻

**学際・融合科学研究科**  
Graduate School of Interdisciplinary New Science  
バイオ・ナノサイエンス融合専攻

**総合情報学研究科**  
Graduate School of Information Sciences and Arts  
総合情報学専攻 ■

**食環境科学研究科**  
Graduate School of Food and Nutritional Sciences  
食環境科学専攻 ■

**情報連携学研究科**  
Graduate School of Information Networking for Innovation and Design  
情報連携学専攻 ■

■ …修士・博士前期課程のみ設置  
■ …博士後期課程のみ設置 他、博士前期・博士後期課程

専門職大学院  
Professional Graduate School

**法務研究科** Legal work post graduate course (Law school) 法務専攻 ■ …専門職学位課程

研究所  
Research Institute

人間科学総合研究所/現代社会総合研究所/東洋学研究所/アジア文化研究所/地域活性化研究所/工業技術研究所/ライフイノベーション研究所/バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター/アジアPPP研究所/井上円了研究センター/グローバル・イノベーション学術センター/情報連携学術実業連携機構

大学院・学部  
併設センター  
Research Institutes and Centers affiliated with Graduate Schools and Faculties

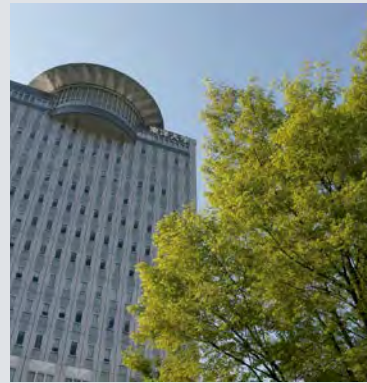
国際哲学研究センター/21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター/経営力創成研究センター/計算力学研究センター/生体医工学研究センター/PPP研究センター/生命環境科学研究センター/福祉社会開発研究センター/産学協同教育センター

★印は学部の場合はイブニングコース(第2部)を設置していること、大学院の場合は主として夜間に授業を行う課程を示す  
※印は通信教育課程を設置していることを示す



白山キャンパス Hakusan Campus

創立以来の伝統と知の資産が結集する都心の近代的なキャンパス  
A modern campus in the heart of the city, where tradition and knowledge have gathered since the school's foundation



文学部／経済学部／経営学部／  
法学部／社会学部／国際学部／  
国際観光学部／  
文学研究科／社会学研究科／  
法学研究科／経営学研究科／  
経済学研究科／国際地域学研究科／  
福祉社会デザイン研究科(社会福祉  
学専攻・福祉社会システム専攻)／  
専門職大学院(法科大学院)

〒112-8606  
東京都文京区白山5-28-20  
TEL. 03-3945-7224  
5-28-20, Hakusan,  
Bunkyo-ku, Tokyo

川越キャンパス Kawagoe Campus

東京ドーム6個分の敷地を誇る先端技術の拠点となるキャンパス  
A base for advanced technology, on a campus that boasts grounds six times the size of Tokyo Dome



理工学部／総合情報学部／  
理工学研究科／  
学際・融合科学研究科／  
総合情報学研究科

〒350-8585  
埼玉県川越市鯨井2100  
TEL. 049-239-1300  
2100, Kujirai, Kawagoe-shi,  
Saitama

NEW 赤羽台キャンパス Akabanedai Campus

最先端の学びを実現するスマートキャンパス  
A smart campus for the actualization of cutting-edge academics



情報連携学部／  
情報連携学研究科

〒115-0053  
東京都北区赤羽台1-7-11  
TEL. 03-5924-2600  
1-7-11, Akabanedai,  
Kita-ku, Tokyo

朝霞キャンパス Asaka Campus

人々の生活に根ざした実用・実学の実践的な教育を展開するキャンパス  
A campus that expands upon practical application and practical learning in education, as shaped by people's lives



ライフデザイン学部／  
福祉社会デザイン研究科(ヒュー  
マンデザイン専攻・人間環境デザ  
イン専攻)

〒351-8510  
埼玉県朝霞市岡48-1  
TEL. 048-468-6311  
48-1, Oka, Asaka-shi, Saitama

板倉キャンパス Itakura Campus

地域に根ざした活動も盛んなバイオテクノロジーの拠点  
A base for biotechnology, rich in activities shaped by the region



生命科学部／食環境科学部／  
生命科学研究科／  
食環境科学研究科

〒374-0193  
群馬県邑楽郡板倉町泉野1-1-1  
TEL. 0276-82-9111  
1-1-1, Izumino, Itakura-machi,  
Oura-gun, Gunma

大手町サテライト Otemachi Satellite

PPPを学ぶ社会人大学院であり国際的なPPP研究の拠点  
A graduate school for members of society to learn about Public-Private Partnerships (PPP), and a base for international PPP research



経済学研究科(公民連携専攻)  
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1  
新大手町ビル1F  
TEL. 03-3231-1021  
1F, New Otemachi Building, 2-2-1, Otemachi, Chiyoda-ku, Tokyo

総合スポーツセンター General Sports Center

さまざまなスポーツ施設を備えたアスリートのための総合センター  
Integrated Athletic Center, prepared with various sports facilities



〒174-0053 東京都板橋区清水町92-1  
TEL. 03-6454-3340  
92-1, Simizu-Cho, Itabashi-ku, Tokyo

東洋大学附属姫路中学校・高等学校

Toyo University Himeji Junior and Senior High School

「考えるを、学ぶ。」教育を実践。姫路市初の男女共学の中高一貫校  
豊かな人間力を育み、一人ひとりの夢の実現をサポート

The practice of contemplative education – cultivating affluent human resources from Himeji City's first co-ed integrated junior and senior high school, and supporting the realization of every student's dream



〒671-2201 兵庫県姫路市書写1699 TEL. 079-266-2626  
1699, Shosha, Himeji-shi, Hyogo

建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」と校訓「自立・友情・英知」を教育活動に取り込み、「考えるを、学ぶ。」を軸に学力伸長と人間力の育成に努めています。2011(平成23)年度「スーパー特進コース」開設。2013(平成25)年度「創立50周年記念校舎」完成。2014(平成26)年度には中学校を開設し姫路市初の男女共学中高一貫校へと発展。国際感覚を有する人間を育てる教育を目指しています。

東洋大学京北中学高等学校

Toyo University Keihoku Junior and Senior High School

授業を中心に据え、「哲学教育」「国際教育」「キャリア教育」に力を入れることで、本当の教養を身につけた国際人を育成

Nurturing genuine, internationally oriented-students through a coherent education focused on the philosophical arts, international education, and career-based learning.



〒112-8607 東京都文京区白山2-36-5 TEL. 03-3816-6211  
2-36-5, Hakusan, Bunkyo-ku, Tokyo

大学附属の男女共学・中高一貫教育校として、国立大学や難関私立大学への進学を目指す学校です。"よりよく生きる"をテーマとした哲学教育(生き方教育)、グローバル社会で活躍する人材を育てる国際教育、そして自己の人生を意欲的に創造するキャリア教育を力強く実践しています。

東洋大学附属牛久中学校・高等学校

Toyo University Ushiku Junior and Senior High School

文部科学省 スーパーグローバルハイスクールアソシエイト校  
未来を切り拓くグローバルな探究心を育む

Designated a Super Global High School by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)  
Cultivating globally inquisitive minds to pioneer a new future



〒300-1211 茨城県牛久市柏田町1360-2 TEL. 029-872-0350  
1360-2, Kashiwadacho, Ushiku-shi, Ibaraki

文部科学省「スーパーグローバルハイスクールアソシエイト校」に選定された高等学校との中高一貫教育により、グローバル社会で活躍できる人材の育成を目指しています。ネイティブ教員による英語レッスン、国内外のイングリッシュキャンプ、各種のプレゼンテーション等の経験を通し、課題発見力・問題解決能力などのグローバル人材の素養を育てます。

京北幼稚園

Keihoku Kindergarten

東洋大学創立者・井上円了により明治時代に開園  
歴史と伝統に基づく幼児教育

Opened in the Meiji Period by Toyo University Founder Enryo Inoue  
Early childhood education based on history and tradition



〒113-0021 東京都文京区本駒込2-13-5 TEL. 03-3941-7090  
2-13-5, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo

1905(明治38)年に井上円了によって創設された京北幼稚園は、成長段階に合わせた遊びと集団生活での経験を通し、自主性と豊かな心を育むため、知・徳・体のバランスのとれた成長を促す保育を実践しています。園舎は光がふんだんに取り入れられ、園児たちの心が休まる温かな雰囲気。また、園内にあるミニ農園での農作物の収穫体験など、自然との触れ合いも大切にしています。